

世田谷版気候市民会議
実施報告書

令和7年4月

世田谷区

－ 目 次 －

I 世田谷版気候市民会議の概要	1
1 背景・目的	1
2 実施体制	1
3 実施状況	2
4 参加者の選定方法	3
5 グループごとに話し合うミッション	8
6 グループの編成方法	8
II 各回の会議の概要とグループワークの成果	9
1 第1回会議	9
2 第2回会議	24
3 第3回会議	35
III 政策提言の作成過程	49
1 政策提言の構成と作成方法の基本的な考え方	49
2 政策提言の作成の流れ	50
3 政策提言（案）に対する意見の募集の概要	50
4 政策提言の内容の変遷	52
IV アンケートの概要と結果	53
1 アンケートの概要	53
2 アンケートの結果	54

I 世田谷版気候市民会議の概要

I 背景・目的

近年、人類の活動に伴って排出される二酸化炭素などの影響で地球温暖化が加速しています。我々が暮らす日本でも、猛暑や集中豪雨が頻発するなど、その影響を感じるが増えてきました。

そのため、世田谷区は令和2年10月に「世田谷区気候非常事態宣言」を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことを表明しました。

世田谷区では、家庭部門の二酸化炭素排出量の割合が高く、全体の約半分を占めています。そのため、世田谷区から排出される二酸化炭素を実質ゼロにするためには、家庭を中心とした身近な暮らしに関わる取り組みが欠かせません。

世田谷版気候市民会議は、この家庭を中心とした身近な暮らしに関わる取り組みの内容を、区民主体のもとに検討していただくために開催しました。世田谷区では、この会議でとりまとめられた取り組みをもとに、「脱炭素化しながらも暮らしやすい世田谷区」の実現に向けた政策を進めていきたいと考えています。

【気候市民会議とは】

気候市民会議とは、無作為に選ばれた市民が複数回の会議に参加し、専門家の話を聞きながら市民同士での話し合いを重ね、気候変動に対する取り組みをとりまとめるものです。令和元年以降、欧州を中心に世界各地の国や地方自治体で開催されています。

参加者を無作為に選ぶことで、その地域の社会の縮図を作って議論を重ねることができ、特定の業界や利害関係者の影響を受けずに、多様な市民の意見を反映した、広く受け入れられやすく効果が大きい取り組みをとりまとめることができると考えられています。

2 実施体制

参 加 者：55名の世田谷区民

主 催：世田谷区

企 画 相 談：三上 直之 氏（名古屋大学 大学院環境学研究科 社会環境学専攻 環境政策論 教授）

講 師：江守 正多 氏（東京大学 未来ビジョン研究センター 教授）

前 真之 氏（東京大学大学院 工学系研究科 建築学科専攻 准教授）

松浦 正浩 氏（明治大学 専門職大学院 ガバナンス研究科（公共政策大学院）専任教授）

ファシリテーター：世田谷区 環境政策部 職員

運 営 事 務 局：アオイ環境株式会社

3 実施状況

(1) 各回のテーマ

世田谷版気候市民会議は、計3回開催しました。各回のテーマを以下に示します。

各回のテーマ

回	テーマ	趣 旨
第1回	気候危機についての理解を深めよう！	・世田谷版気候市民会議の進め方を共有する ・気候変動問題の現状を学ぶ ・家庭部門の脱炭素化の方向性を学ぶ ・身近な暮らしの脱炭素化が進まない原因・障壁を整理する
第2回	暮らしの脱炭素化について考えよう！	・第1回会議を振り返る ・家庭部門の脱炭素化の方向性をさらに学ぶ ・脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みを検討する
第3回	区への政策提言をとりまとめよう！	・第1回会議と第2回会議を振り返る ・トランジションとトランジション・マネジメントの概念を学ぶ ・身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップを検討する

(2) 各回の日時・場所、講師等

世田谷版気候市民会議の各回の日時・場所、講師等を以下に示します。

各回の日時・場所、講師等の情報

回	日時・場所	講師・情報提供者
第1回	令和7年1月26日(日) 13:00～16:30 世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)	【講師】 江守 正多 氏(東京大学 未来ビジョン研究センター 教授) 前 真之 氏(東京大学大学院 工学系研究科 建築学科専攻 准教授) 【情報提供者】 中西 成之(世田谷区 環境政策部長)
第2回	令和7年2月16日(日) 13:00～16:30 世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)	【講師】 前 真之 氏(東京大学大学院 工学系研究科 建築学科専攻 准教授)
第3回	令和7年3月2日(日) 13:00～16:30 世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)	【講師】 松浦 正浩 氏(明治大学 専門職大学院 ガバナンス研究科 (公共政策大学院) 専任教授)

4 参加者の選定方法

(1) 参加候補者の選出

世田谷版気候市民会議の参加候補者は、世田谷区住民基本台帳から無作為抽出をした後、抽出した方へ参加希望を確認する方法により選出しました。その際、気候変動問題に関心がない方も参加者に含まれるようにするため、会議1回当たり3,000円（クオカード）の謝礼を提示しました。

参加候補者の選出の過程を以下に示します。

無作為抽出の方法

- ・令和6年7月1日時点で区内在住、令和6年10月1日時点で満16歳以上となる4,000名を抽出
- ・年代、性別、居住地の構成は、世田谷区住民基本台帳を用いて、区の人口統計に合わせた構成となるように設定

参加希望の確認方法

- ・抽出した方全員へ、令和6年10月30日に会議の概要を示した案内を郵送（発送）し、参加希望を確認

参加候補者の選出結果

- ・参加希望があった248名を候補者として選出

4,000 名に送付した案内

このご案内は、世田谷区に住居登録がある16歳以上の区民の皆様の中から、無作為に選ばせていただいた4,000名の方にお送りしています。

令和6年10月

「世田谷版気候市民会議」の実施及び会議参加のご案内について

世田谷区長 保坂 展人

日ごろより、世田谷区政にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、事前のお知らせなく、突然のご案内となることにつきまして、ご容赦くださいますようお願いいたします。

近年、地球温暖化に起因する気候変動によって、猛暑や集中豪雨が頻発するなど、その影響は区民の皆さんの生活にとって益々大きくなっています。

これまで世田谷区では、気候変動への対策として、自治体間連携による再生可能エネルギーの普及拡大や、自然の力を活かしたグリーンインフラの整備づくり等に努めてきました。また、令和2年10月には「世田谷区気候非常事態宣言」を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざし、区民の皆様の参加のもと、より良い環境と生命を守るための行動を加速させていくことを表明しております。

このたび、「2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロ」という目標に向け、さらに新たな取り組みを推進するため、区民の身近な生活のなかで実行できる取り組み、行政や事業者と連携しながら実行できる取り組みなどについて学び、考え、議論し、提案することを目的として、区民参加型会議である「世田谷版気候市民会議」を実施させていただきます。

つきましては、今回の趣旨を踏まえ、同封のチラシをご確認いただき、本会議にご参加いただける場合は、回答をしていただきますようお願いいたします。なお、無作為抽出の関係上、ご参加が難しい方にお送りしている場合がありますが、ご容赦くださいますようお願いいたします。

所望よりしくお願い申し上げます。

【送付物】
①本紙 ②参加案内チラシ ③参加申込票 ※Webフォームでの回答可
④返信用封筒 ※③参加申込票（※）で申込の場合に使用

【問合せ先】
世田谷区 環境政策部 環境計画課
〒158-0094 世田谷区玉川1-20-1 二子玉川分庁舎
電話：03-6432-7135 FAX：03-6432-7981

世田谷版気候市民会議 参加申込票

スマホやPCをお持ちの方はWebフォームからの申込も可能です
※Webフォームから申込をされた場合は本票の返信は不要です。

世田谷版気候市民会議の参加申込をいただける場合は、以下の項目を記入のうえ、同封の返信用封筒(令和6年11月22日まで)にてご返送ください。

下表の右側に記入もしくは口にチェックをお願いします。

フリガナ 氏名	平
住所	〒 世田谷区
年齢層	□16歳～ □20歳～ □25歳～ □30歳～ □40歳～ □50歳～ □60歳～ □70歳以上 ※18歳未満の方は保護者の同意を得て申し込んでください。
職業	□学生 □パート・アルバイト □会社員 □会社役員 □自営業・個人事業 □無職 □その他()
居住形態	□賃貸集合住宅 □賃貸戸建て □持ち家集合住宅 □持ち家戸建て □その他()
太陽光パネルの設置	・自宅に太陽光パネルが設置されていますか？ □設置済み □未設置 □設置検討中
契約している電力プラン	・CO2排出量実質ゼロ(実質再生可能エネルギー100%)を利用していますか？ □はい □いいえ □わからない
気候変動問題への関心	□高い関心を持っている □関心を持っている □少し関心を持っている □関心を持っていない
電話番号	
メールアドレス	※参加可否確認など、今後の連絡先として使用するため、必ずご記入ください。 ※メールアドレスをお持ちでない場合、郵送にてご案内させていただきます。
その他	※会議参加に当たり、配慮が必要な事項がありましたら、ご記入ください。

- ◆ 参加の申込をいただいた方の中から、居住地域や年齢等による絞り込みを行い、参加者を決定させていただきます。
- ◆ 今後の連絡は原則として、ご記入いただいたメールアドレス宛に連絡を差し上げます。
- ◆ 参加者決定後の会議に関する連絡は世田谷版気候市民会議支援業務を委託する事業者から連絡させていただきます。

世田谷版 気候 市民会議

参加募集のご案内

(※ 本案内状は、住民基本台帳から無作為抽出した区民4,000名の方にお届けしています。)

参加者
募集中

全3回に参加された方には
3,000円分(1回の参加につき300円)を進呈

気候危機について
一緒に考えましょう！

＜気候市民会議とは＞

無作為抽出で選ばれた住民が、専門家等からの情報提供を踏まえて話し合い、気候変動対策をまとめて提言する、市民参加の手法です。欧州各国で広がり、日本国内でも、川崎市・杉並区などで開催されています。世田谷区では初めての開催になります。

＜開催日時＞

第1回：2025年 1月26日(日)
第2回：2025年 2月16日(日)
第3回：2025年 3月 2日(日)
いずれも13時00分～16時30分を予定

＜場所＞

世田谷区立教育総合センター
(世田谷区若林5-38-1)
東急世田谷線 若林駅 徒歩9分
小田急線 梅ヶ丘駅 徒歩12分

＜募集人数＞
50名

- ・日本語での会話・議論ができる方
- ・参加に係る交通費を自己負担できる方
- ・参加決定の連絡は12月中旬を予定

＜世田谷区の気候危機への取組＞

世田谷版
気候市民会議

世田谷区
気候非常事態宣言

世田谷区
地球温暖化対策
地域計画

世田谷版気候市民会議ってなに？

世田谷区では、近年の気候危機に立ち向かっていくため、事業者・区民の皆さまと危機の状況を共有し、共に考え、行動していくことが重要と考えています。

そこで今回、無作為抽出市の市民会議(ミニパブリックス)の手法を用いて、これまで環境に関心の薄かった方も含め、区民の皆さまを巻き込み、環境問題について学び、考え、議論し、提案する会議を開催することで、当事者意識の醸成や行動変容にも繋げていきたいと思います。

子どもたちがいつまでも地域で安全に暮らしている地球環境とするため、いま、取り組むべきことを一緒に考えませんか。ご応募のほどお待ちしております！

会議内容

第1回	第2回	第3回
【テーマ】 気候危機について 理解を深めよう！	【テーマ】 暮らしの脱炭素化について 考えよう！	【テーマ】 区への提言を とりまとめよう！

> 各回、専門家等による講演(インプット)を行った後にグループワークを実施予定。
 > グループワークで議論した内容を最終的に区への提言としてとりまとめます。
 > 詳細な内容については現在、調整中です。

申込方法

① Webフォームから ⇒ 右の二次元コードから必要事項を入力の上、お申し込みください

② 同封の参加申込票から ⇒ 同封の参加申込票に必要事項を記入の上、同封の返信用封筒に入れて投函ください。

【申込締切】 ①②ともに、**令和6年11月22日(金)まで**に 入力(投函)ください。

よくある質問

Q1: 3回すべてに参加しなければならないか？
■ 全3回の参加をお願いします。参加決定後に急遽外せない予定が入ってしまった場合は各回、開催前に出欠確認いたしますのでお知らせください。

Q2: 環境に関する知識がなく、参加が不安。
■ 気候問題等について理解を深めていただくための講演等を予定しており、話し合うテーマは身近なものを予定しておりますのでお気軽にご応募ください。

Q3: なぜ自分に会議参加依頼が来たのか？
■ 住民基本台帳から無作為抽出した区民4,000名の方にお届けさせていただいています。

Q4: 宛名本人の家族等が代わりに参加してもよいのか？
■ 宛名のご本人以外の参加申込はできません。

Q5: 参加申込をしたら、会議への参加は決定なのか？
■ 参加申込をいただいた方の中から、居住地域や年齢等による絞り込みを行い、50名程度の参加者を決定します。会議参加の可否については、12月中旬までにご連絡を差し上げます。

さまざまな方にご参加いただきたいたいと考えておりますので、お身体やご家族の状況などの関係で、支援が必要な方は、お気軽にご相談ください。

年代ごとの送付数

年代	送付数	送付数の割合	区全域の割合
16～19 歳	148	4%	4%
20 代	624	16%	15%
30 代	582	15%	15%
40 代	720	18%	18%
50 代	734	18%	18%
60 代	482	12%	12%
70 代以上	710	18%	18%
合計	4,000	100%	100%

※割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても 100%とならない場合がある。

性別ごとの送付数

性別	送付数	送付数の割合	区全域の割合
男性	1,908	48%	47%
女性	2,092	52%	53%
合計	4,000	100%	100%

※割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても 100%とならない場合がある。

居住地ごとの送付数

居住地	送付数	送付数の割合	区全域の割合
世田谷	1,115	28%	28%
北沢	666	17%	17%
玉川	971	24%	25%
砧	696	17%	18%
烏山	552	14%	13%
合計	4,000	100%	100%

※割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても 100%とならない場合がある。

(2) 参加者の選定

世田谷版気候市民会議の参加者の選定に当たっては、あらかじめ、区の人口統計に合わせた年代、性別、居住地の構成となるような定員 55 名の理想的な内訳（年代、性別、居住地の人数配分）を算出しておきました。

次に、参加候補者計 248 名を年代、性別、居住地に分け、可能な範囲で定員 55 名の内訳に近づくように無作為に人数を絞り込み、参加者を選定しました。

参加者の選定の過程を以下に示します。

年代ごとの参加者の選定状況

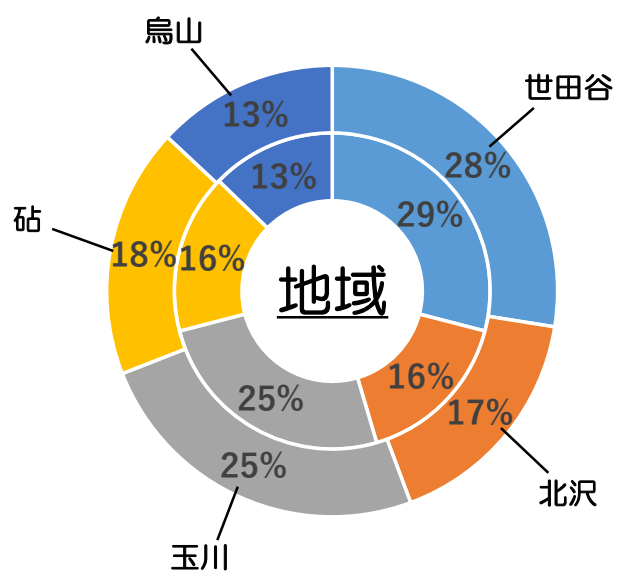
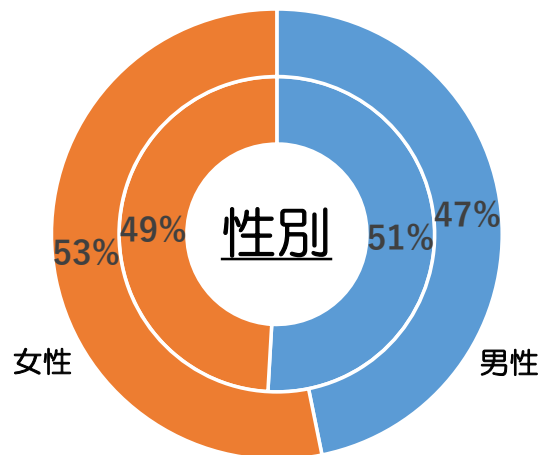
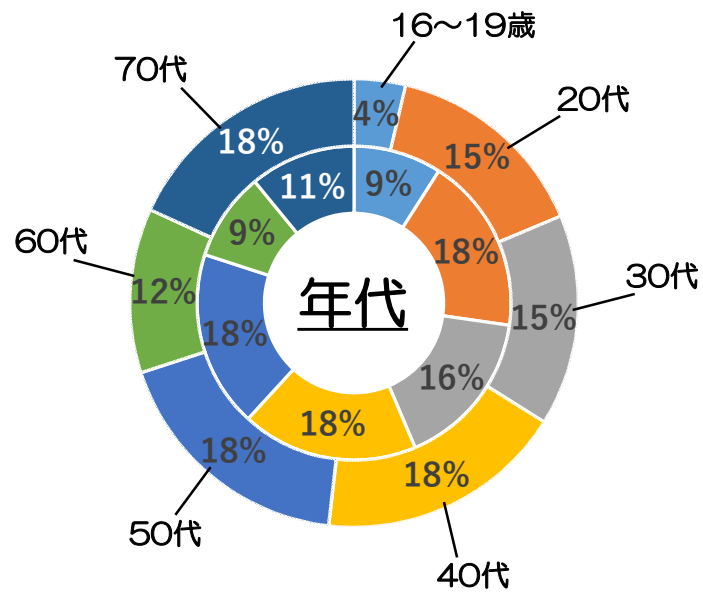
年代	参加候補者数	参加者数	定員 55 名の理想的な内訳
16～19 歳	11	5	2.0
20 代	18	10	8.2
30 代	32	9	8.4
40 代	37	10	9.9
50 代	73	10	10.0
60 代	42	5	6.5
70 代以上	35	6	10.0
合計	248	55	55.0

性別ごとの参加者の選定状況

性別	参加候補者数	参加者数	定員 55 名の理想的な内訳
男性	126	28	25.7
女性	114	27	29.3
不明	8	—	—
合計	248	55	55.0

居住地ごとの参加者の選定状況

居住地	参加候補者数	参加者数	定員 55 名の理想的な内訳
世田谷	77	16	15.2
北沢	41	9	9.2
玉川	63	14	13.6
砧	37	9	9.9
烏山	30	7	7.2
合計	248	55	55.0



※割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても100%とならない場合がある。

区全域の構成と選定した参加者の構成の比較（外側：区全域、内側：参加者）

5 グループごとに話し合うミッション

世田谷版気候市民会議では、我々の家庭で使用する電気などがもとになって排出される二酸化炭素を減らし、2050 年までに限りなくゼロに近づける（＝暮らしを脱炭素化する）ため、下記の 4 つのミッションに沿って話し合いました。

- ミッション① 太陽光発電設備の設置
- ミッション② 再生可能エネルギー電力への切替え
- ミッション③ 住宅の省エネ改修
- ミッション④ 脱炭素行動変容

6 グループの編成方法

世田谷版気候市民会議では、参加者 1 人ひとりの発言時間を十分確保できるようにするために、参加者 55 名を 8 つに分けてグループを編成しました。また、ボリュームのある検討を効率的に進めることができるように、各参加者に話し合いたいミッションの希望を聞いたうえで、グループを編成しました（4 ミッション×2 グループ＝計 8 グループ）。

グループ編成に当たっては、各グループのなかで多様な意見が出てくるように、同じグループ内にできるだけ多様な年代・性別の参加者が含まれるように留意しました。また、参加者同士が打ち解け合い、議論が活発になるように、第 1 回から第 3 回までを基本的に同じグループ編成で進めましたが、欠席者の数によって人数が極端に少なくなるグループが出た場合には、適宜グループ間のメンバーの移動を依頼しました。

II 各回の会議の概要とグループワークの成果

I 第 I 回会議

(1) 会議の概要

日 時：令和 7 年 1 月 26 日（日） 13:00～16:30
場 所：世田谷区立教育総合センター 研修室（たいよう）
参加者数：35 名
テ ー マ：気候危機についての理解を深めよう！
講 師：
江守 正多 氏（東京大学 未来ビジョン研究センター 教授）
前 真之 氏（東京大学大学院 工学系研究科 建築学科専攻 准教授）
情報提供：中西 成之（世田谷区 環境政策部長）

(2) 会議のプログラム

第 I 回会議のプログラムを以下に示します。なお、会議資料は WEB 上に公開しました。

第 I 回会議のプログラム

時刻	時間	プログラム
13:00～	3 分	開会、主催者挨拶
13:03～	10 分	【グループワーク】参加者同士の自己紹介
13:13～	7 分	世田谷版気候市民会議の概要と狙い
13:20～	25 分	【講演】世界を取り巻く気候変動問題（江守 正多 氏）
13:45～	10 分	【グループワーク】全 3 回の会議で話したいことや質問の共有
13:55～	10 分	説明や講演に対する質問と回答
14:05～	10 分	休憩
14:15～	5 分	世田谷区長からのメッセージ
14:20～	13 分	【情報提供】ゼロカーボンの実現に向けて（世田谷区 環境政策部長）
14:33～	20 分	【講演】家庭部門の脱炭素（前 真之 氏）
14:53～	10 分	【グループワーク】情報提供や講演を聞いた感想・質問の共有
15:03～	10 分	情報提供や講演に対する質問と回答
15:13～	10 分	休憩
15:23～	2 分	【情報提供】4 つのミッションに対する現状（世田谷区 環境政策部長）
15:25～	5 分	グループワークの進め方
15:30～	40 分	【グループワーク】身近な暮らしの脱炭素化に関する問題・障壁の整理
16:10～	10 分	グループワーク結果の共有
16:20～	5 分	まとめ（江守 正多 氏、前 真之 氏）
16:25～ 16:30	5 分	閉会、事務連絡

(3) 当日の様子

【講演や情報提供の様子】



世田谷区長からのメッセージ



【講演】世界を取り巻く気候変動問題
(江守 正多 氏)



【情報提供】ゼロカーボンの実現に向けて
(世田谷区 環境政策部長)



【講演】家庭部門の脱炭素
(前 真之 氏)

【参加者からの質問やグループワークの様子】



講演や情報提供に対する質問と回答



【グループワーク】身近な暮らしの
脱炭素化に関する問題・障壁の整理

(4) 講演等に対する質問と回答の内容

第 1 回会議の講演等に対して参加者からあがった質問とそれに対する回答の内容を以下に示します。なお、参加者からあがった質問には、会議終了後に行ったアンケートに記載された質問も含まれます。また、この質問と回答は、後日参加者全員に開示するとともに、第 2 回会議の際に配付しました。

第 1 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (1/8)

【気候変動問題全般】

No.	意見・質問	回答
①	(会議中の質問) 二酸化炭素は、植物の光合成には欠かせないものであり、生態系にとっても必要なものであるが、排出量をゼロにしてしまっ問題がないのか教えて欲しい。	【江守氏】(会議中の回答) 人間が活動を始める前から大気中には二酸化炭素があり、それが現在、人間の影響により 1.5 倍ぐらいに増えている状態です。 今後、人間の活動によって排出される二酸化炭素の量を実質ゼロにしていいますが、大気中の二酸化炭素の量はゆっくり減っていく(もとに戻っていく)だけで、ゼロにはなりませんので、植物や生態系に対する影響を心配する必要はありません。
②	CO ₂ 削減目標は緑化推進とも関係しますか?効果は期待できるのでしょうか?	【江守氏】植林や森林管理による森林の CO ₂ 吸収促進は、大気中 CO ₂ 濃度を抑制する手段の一つです。ただし、外来種の単一種を大規模に植林するような方法だと生物多様性に悪影響がある、森林火災によって蓄えた炭素が放出する可能性がある、といった点に注意が必要です。
③	(会議中の質問) 日本の温室効果ガスの排出量は、2013 年以降徐々に減少しており、削減ペースだけで見ると目標に向けて順調に進んでいるように見えるという話であったが、その要因を教えて欲しい。	【江守氏】(会議中の回答) 2013 年は、2011 年の東日本大震災の影響で原子力発電が止まっており、火力発電の割合が増えていた年でした。また、再生可能エネルギーの固定価格買取制度という再エネ普及策が始まったばかりの年でした。 そのため、2013 年以降、原子力発電の一部再稼働や太陽光発電の増加により、電力消費に伴う二酸化炭素の排出量が減っていきましまた。また、自動車の燃費向上や工業生産量の減少なども二酸化炭素の排出量が減った要因と考えられます。 しかし、この先、同じようなペースで減少していくとは限らず、予断を許さない状況であると理解しています。
④	第 1 回会議講演資料 p.11 について、排出量が減っている理由の一つに経済がシュリンクしているりましたが、近年のインバウンドによる経済成長を目指す方針は排出量減と両立可能でしょうか。または脱成長は不要でしょうか。また吸収量は漸減しているように見えますが、この流れは今後も変わらない見込みでしょうか。	【江守氏】経済活動と関係して排出量が減っているのは、主に鉄鋼業、化学工業などの工業生産量の減少によるものと理解しています。観光などのサービス業によって経済を活性化することは、相対的には排出量の増加につながりにくいと思います。 「脱成長」は、それが何を意味するかによりますが、特に富裕層の過剰消費を計画的に抑制すべきという議論には個人的に説得力を感じます。ただし、そのような制度を作ることは政治的なハードルが高いです。 日本の森林吸収量の漸減は人工林の高齢化によるものと説明されており、この傾向が続くのではないのでしょうか。

第 1 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (2/8)

No.	意見・質問	回答
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・ (会議中の質問) 気候変動は、既に臨界点を超えているという意見もあるが、実際のところを教えて欲しい。 ・ (会議中の質問) 日本や市民のレベルで頑張ろうとしても世界的なレベルで取り組みが進んでいかないのは政治の問題だと思うが、講師の考えを教えて欲しい。 	<p>【江守氏】(会議中の回答) 産業革命前と比較し、気温の上昇を 1.5℃までに抑えるという目標がありますが、現在の気温はまだそこまで到達していません。しかし、気候変動は現在も進行しており、この先、我々が普通に頑張って取り組みを進めても、1.5℃は超えてしまうと考えられます。</p> <p>だからと言って取り組みをあきらめるのではなく、もし 1.5℃を超えてしまったら 1.6℃で止まるように温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするための取り組みを続ける必要があります。これが、世界で共有されている基本的な考え方だと認識しています。</p> <p>現在の世界の動きを見てみると、最も排出量が多い中国は、2060 年に二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするという目標を掲げていて、太陽光発電や電気自動車などを急増させています。</p> <p>次に排出量が多いアメリカを見てみると、先日大統領に就任したトランプ氏の考え方は気候変動政策にブレーキをかけるものです。しかし、民主党系の州では、この先も取り組みを強化していくと言っているため、アメリカ全体が取り組みをやめてしまうわけではありません。そのため、何とかトランプ氏の影響を最小限に抑えながら 4 年間のしのごしかないと考えています。</p> <p>また、その間、他の国はトランプ氏に同調しないように、引き続き排出量実質ゼロという目標に向けて協力していくことが重要と考えています。</p>
⑥	<p>(会議中の質問) 「人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と言われている中で、一国のリーダーなどからもそれを疑う声が出てきてしまうという現状がある。どうしてこのような声が出てくるのか、どこに問題があるのかを教えてください。</p>	<p>【江守氏】(会議中の回答) 気候変動問題は、科学的な問題であるだけでなく、文化的な問題になっている場合もあります。</p> <p>例えば、アメリカでは保守とリベラルの分断が進んでおり、気候変動問題は銃規制や妊娠中絶などと並ぶ一つのトピックになっています。このようにして、科学的にどちらの主張が正しいかということを議論することができなくなっている現状があります。</p> <p>このような背景から、保守系の一部の人たちから、気候変動は人間が原因のものではない、気候変動が進んでも影響は小さい、取り組みをしても効果は小さいというような主張が大きく拡散されており、日本でも何らかの動機でそのような主張を拡散する人がいて、インターネットなどで同調する人たちが出てくる、という構造があると考えられます。</p>

第 1 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (3/8)

【家庭部門の取り組み全般】

No.	意見・質問	回答
①	<p>(会議中の質問) 世田谷区民にとって、どのような取り組みをするとどれだけの効果が得られるのかを整理したい。そのなかで、再エネ電力の普及、VtoH (電気自動車のバッテリーに貯めたエネルギーを家庭用電力として利用できるシステム) の普及、電気自動車の普及について、講師の考えを教えて欲しい。</p>	<p>【前氏】(会議中の回答) 電気代とガス代を減らすのであれば、まず給湯を減らすと良いと思います。シャワーヘッドを節湯型に交換することはすぐできますし、ガス給湯器が故障しそうになったら、早めにエコジョーズ (排気熱を再利用することで、少ないエネルギーでお湯を沸かすことができる給湯器) やエコキュート (ヒートポンプ技術によって大気中の熱を利用してお湯を沸かすことができる給湯器) に換えるということが大事だと思います。また、日本人は浴槽入浴が当たり前になっていますが、海外ではバスタブをなくす運動すらあります。このように、リラクゼーションとして使っている湯消費を見直す視点も必要かも知れません。</p> <p>また、照明や冷蔵庫など 1 日中電気を使っているものを見直すと効果的に節電できます。照明の LED 化は必須です。</p> <p>冷暖房に関しては、室内の環境が夏や冬に不健康な状態になっていますので、省エネの視点だけでなく健康で快適に過ごすという視点で断熱の取り組みをすると良いと思います。</p> <p>その他、生活するうえで、エネルギー消費をゼロにすることはできませんので、太陽光発電設備は是非設置して頂きたいと思います。</p> <p>ここまでは、是非取り組んで欲しいことで、ここからはどこまで取り組むかについてお話しします。</p> <p>蓄電池は、東京都から補助金が出ていますので、太陽光発電設備を設置している人、これから設置する人は、このタイミングで設置すると良いと思います。</p> <p>電気自動車を持っている人、これから購入する人は、200V の充電器を設置すると良いと思います。V2H は、対応している車種が少ないこと、電力を車から家へ出力する際のロスが大きいこと、高額であることを踏まえると、無理して今設置する必要はないかも知れません。</p> <p>【主催者】(会議中の回答) どのような取り組みをするとどれだけの効果が得られるのかという点については、参考資料 5「国内 52 都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢」に掲載されていますので、是非ご覧ください。</p>
②	<p>(会議中の質問) マンションで一人暮らしをしている 20 代の区民にできる安くて簡単な取り組みを教えて欲しい。</p>	<p>【前氏】(会議中の回答) マンションは、戸建てと比べてできることは少ないですが、再エネ電力への切替えはすぐにできますので、是非進めると良いと思います。</p> <p>賃貸住宅などで本格的な内窓を設置できない場合は、窓にポリカーボネートの板を設置したり、カーテンを厚手のものに取り換えたり、カーテンの隙間をなくしたりすると良いと思います。夏は、遮熱型のカーテンも有効です。</p> <p>マンションでは、給湯機を換えるのは難しいかも知れませんが、可能であればエコジョーズに換えると良いと思います。</p> <p>その他、照明を LED に換えるなど、コツコツと取り組みを進めると良いと思います。</p>
③	<p>例えば 2030 年の CO₂ 削減目標を達成するために、4 人家族の一戸建てで達成する必要のある具体的な取り組みの程度を知りたい。</p>	<p>【前氏】 高断熱高気密+高効率設備+太陽光発電は必須だと思います。戸建住宅は外皮面積が大きいので、外皮の断熱気密は特に重要です。一方で、スペースに余裕があるのでエコキュートなどの設置も容易で、屋根に太陽光発電も載せられるので、対策しやすい面もあるのです。</p>

第 1 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (4/8)

No.	意見・質問	回答
④	ヨーロッパでの対策がうまくいっているというお話がありましたが、どの国のどういう対策が有効か知りたいです。	【前氏】国によって、気候やエネルギー事情・住まい方が違うので、一概にどの国を見習うべきかは難しいです。冬寒冷なドイツなどヨーロッパでは断熱気密の技術が非常に進歩する一方で、夏暑い日本はエアコンなどの設備や太陽光発電に力を入れてきました。今は、それぞれの得意を交換している状況です。「日本ダメ論」「日本スゴイ論」の両極端に触れるのではなく、世界のいいところを学びながら、日本に暮らす人に合ったよい対策を見つけることが大事だと思います。
⑤	産業構造の転換・技術革新に対する国・財界の開発投資の姿勢。投資規模等	【前氏】脱炭素をマジメにやると、現状の化石燃料を大量に消費する既存の大量消費の産業・社会構造は大転換を迫られるのは間違いありません。人と地球に悪い産業にお金が回らないようにする金融の動きも活発化していましたが、そうした動きへの既得権の反発としてトランプ大統領の再登板などが出ています。しかし、脱炭素は長期的に人と地球にやさしい形に社会を変えるものなので、長期では進んでいくと考えます。現在の暮らしが本当に幸せなのか、よく見直す必要があります。

【太陽光発電とその他再生可能エネルギー】

No.	意見・質問	回答
①	公団住宅賃貸住人です。公共住宅などの太陽光発電への取り組みはどんな具合でしょうか？また、他の高層ビルなども。	【前氏】非常に遅れていると思います。古い建物は図面がない場合も多く、構造的に大丈夫かどうかの確認が難しいことも障害です。また共同住宅では太陽光発電の電気を住民の人が使うには、配電や課金の仕組みを工夫する必要があります。最近では太陽光発電と蓄電池で電気代家賃込みを実現している高性能賃貸も登場しています。
②	「ペロブスカイトの将来展望について」 今回の会議では、太陽光発電が、中心となっていますが、積水化学がペロブスカイトを 2027 年度に量産化する予定です。当初は業務用中心となるでしょうが、早晚コストダウンを図り家庭用にも展開されるのではと、期待しております。もしその様になるのであれば、今太陽光発電を選ぶより、もう少し待ってペロブスカイトにした方が良いのではと考えますが、先生のご意見は如何でしょうか？	【前氏】ペロブスカイトが早く市販化されることを期待しますが、現状においては効率低下や耐久性など解決すべき問題が残っていると理解しています。既存のシリコン系は 40 年保証のメーカーもあるほど、長い時間をかけて耐久性が高められています。屋根置きについては、ペロブスカイトを待つことなく既存のシリコン系を付けて早く発電をはじめた方がよいと考えます。ペロブスカイトは曲面にも設置できるので、屋根置きとは別の設置方式に適応されることが期待できます。
③	築 30 年の二階建（持家）ですが太陽光関係設備を設置した場合、将来建て替えた場合に太陽光関係設備の再利用は（経過年数との関係で）可能でしょうか？（目安で OK）	【前氏】既存のシリコン系パネルは非常に耐久性がありますので、後での再利用も十分に可能です。実際に、野立ての太陽光パネルは普通に再利用されています。直流を交流にかえるパワコンは、寿命が 15 年程度なので交換が必要です。

第1回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (5/8)

No.	意見・質問	回答
④	太陽光パネルの製造過程における人権問題（例：ウイグル地域など）について、どのようにお考えでしょうか。	【前氏】非常に大事な問題で、国や太陽光発電協会も対策を進めており、製品の製造で人権問題が起きていないかの確認が求められるようになってきています。ただし、同様の問題は食料・衣料・家電など全ての輸入品と同様に対策されるべきであり、太陽光発電の時だけ声高に議論されることには疑問を感じています。もちろん、人権や環境問題について意識を共有する友好国や自国への生産シフトができれば最善です。
⑤	太陽光パネルが何十年後に今のプラゴミのようにゴミ問題に発展しませんか？エコ・リサイクルできますか？	【前氏】太陽光パネルはほとんどがガラス・アルミ・樹脂といった一般素材でつくられており、シリコンや希少金属はわずかです。値段が非常に安くなってきていることから、特殊な素材利用を抑えているのは明らかです。リユースやリサイクルの利用も整えられており、年1億トンある通常の産業廃棄物と同様に適切に処理できると考えます。
⑥	太陽光以外の効率の良い発電方法があれば教えてほしいです。	【前氏】生活に必要な1日10kWhというかなりの量の電気を効率的に作るのは、簡単なことではありません。ガスや石油で作れば普通の電気よりはるかに低効率で高額になりますし、風力は大きいほど効率がよいので住宅には適しません。浅学ながら自分は心当たりがありません。あればぜひ教えていただければと思います。
⑦	昼夜の電力使用料の差を知りたいです。昼間の使用が低いと太陽光の必要性に疑問が生じます。CO ₂ 削減は大きな問題と捉えています。そこで、やはり蓄電池の推進が必要と感じますが、蓄電池の安価にして行く動きはありますか？	【前氏】原子力発電が停止する中、以前のように夜間が極端に安い料金メニューはなくなっています。昼間が安いプランは太陽光の電気が余りがちな九州電力などは提供していますが、東京電力は提供していません。一部の新電力が提供している市場価格連動型プランであれば、昼間にある程度安い電気を買うこともできます。 蓄電池のセル価格はEVの発展もあって世界的には急低下していますが、日本では若干低下する程度かもしれません。補助金があるとメーカーは下げる努力を怠りませんから。また蓄電池は蓄放電の際に1～2割のロスがあります。貯めるなら太陽光の電気にするべきでしょう。

【その他家庭部門の取り組み】

No.	意見・質問	回答
①	（会議中の質問）内窓の設置方法やメリットについて教えて欲しい。	【前氏】（会議中の回答）マンションでは、外窓は共用部扱いになるため勝手に交換することはできませんが、分譲であれば内窓は入居者の判断で取り付けることができます。 断熱性の他にも、静穏性の面でメリットが大きいためお勧めです。 また、改修のタイミングで外壁に断熱材を貼ったり、窓の断熱化をしたりすると住民にとってメリットが大きいので、是非、東京都にサポートしてもらいたいと考えています。

第 1 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (6/8)

No.	意見・質問	回答
②	<ul style="list-style-type: none"> 窓断熱で、ポリカをはめ込む場合の熱損失は 53%減で、内窓設置は 67%減とのことですが、両者の熱損失の差がさほど無い様に感じるのですがこの 14%の差は大きいものでしょうか？室内の温度にどの程度差がでるものでしょうか？また、設置にかかる費用は両者で大きく違うので差が無ければ DIY も選択肢となるようです。 他にも断熱カーテンや断熱シート、断熱フィルムを貼るなどの様々な選択肢がありますが、こういった手法の熱損失の値や効果の違いなどはあるのでしょうか？すぐには踏み出せない方や賃貸に住んでる方などがおり、このあたりの見解をご教示いただければと思います。 	<p>【前氏】断熱で大事なものは窓との間に密閉した空気層をつくることです。断熱シートやフィルムは密閉空気層を作れないので効果は小さいです。カーテンも隙間があると空気が動いてしまうので効果は限られます。ポリカ板を適切にはめ込めるのであれば効果は期待できます。実際、ポリカを使った D I Y キットも市販化されています。</p> <p>ただ、見た目や耐久性には疑問もあります。自分もマンションに内窓を付けていますが、見た目や眺望も問題ないですし、寒さや暑さへの効果、なにより外の音を防ぐ遮音性に大変満足しています。</p>
③	(会議中の質問) おすすめの節湯型シャワーヘッドを教えてください。	<p>【前氏】(会議中の回答) 節湯性能の高いものは、少ない水を勢いよくあてるようにできています。しかし、長く使用していると痛く感じる場合もあるため、自分に合ったものを探してもらうのが良いと思います。</p> <p>2 割程度節湯できるタイプだと、それほど使用感は変わらないと思います。このあたりから試して頂き、問題なければ 3~4 割程度節湯できるタイプに換えてみると良いと思います。</p>
④	まだ使える家電を廃棄することよりも、省エネ家電に買い換えることのメリットの方が大きいのでしょうか？	<p>【前氏】ものによると思います。年間を通して長時間使うもの、例えば冷蔵庫などは 10 年以上前のものであれば買い替えをおすすめします。急に壊れるとかなり不便な思いをしますし。たまにしか使わないものはムリに買い替える必要はないでしょう。</p>

【取り組みを浸透させるための方策】

No.	意見・質問	回答
①	<ul style="list-style-type: none"> 家庭部門の脱炭素はどうあるべきかの結論は出ているのに、ここまで取り組みが遅れてしまっているのは、推進する政策の方向性がずれているのか、どこに原因があるのでしょうか？ 市民になかなか浸透しない理由は何だと思いますか？(対策への理解・対策への賛成 など) 	<p>【前氏】国や自治体の問題もありますが、なにより「国民のニーズ」がないのが原因でしょう。日本では自分は慎ましく暮らしていると思っている人が多いので、ことさら省エネとか脱炭素とかいっても響かないようです。ただし一度、高断熱な家に住んで快適さを知ってしまうと、もう昔の家にはみんな戻れません。ニーズがないのではなく、今の暮らしの問題を知らないのが問題のようです。</p> <p>自分は住宅の省エネを 25 年以上研究していますが、今は「日本に暮らす誰もが健康快適で電気代も安心な暮らし」を目標にしています。まずは十分な質の暮らしを目標にする、次にそれを少ない負担で実現する方法・仕組みを考えるのが大切でしょう。</p>

第 1 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (7/8)

No.	意見・質問	回答
②	太陽光パネルに対し、エアコン等、今一番必要である高齢者への説明、理解していただくのは認知の面もありなかなか難しいとは思いますがどうしていくかおしえていただきたいです。	【前氏】人によって、問題意識や感性は違うので、同じ方法でみんなが納得するというのは難しいでしょう。それぞれの人が気にしている問題点、冬の寒さや夏の暑さ・電気代・環境意識に応じて、解決策を提案していくしかないでしょう。マジメに考えれば、解決方法はだいたい同じになります。特に、お年寄りは温熱感覚が鈍っていて温度を感じにくい場合もあるので要注意です。「ヒートショックや熱中症で倒れられるとみんなが困るのよ」みたいな言い方もあるかもしれませんがね。後、改修した家が後で高く売れる、ということも大事です。住みつぶすのではなく次世代に引き継げるリフォームができるといいですね。
③	対策実施方法、助成金申請方法、コスパ タイパなどの具体事例の情報をご共有いただけますと幸いです。アクションのイメージが湧き行動に移りやすくなるかと思います	【前氏】助成金などは毎年、国や自治体が多様なものを出すので、そちらは行政に相談されると良いと思います。実行できそうな対策はだいたいお伝えしたのですが、もう少し考えてみます。

【世田谷区の取り組み】

No.	意見・質問	回答
①	世田谷区区長さんを始め、職員さんたちのミッション遂行率はどういう状況でしょうか	【主催者】具体的な数字は把握していませんが、区民の皆様同様に、職員に対しても脱炭素化に向けた取り組み周知や啓発を図っております。
②	太陽光発電の設置率がかなり低いようですが、今後目標に届かないようであれば区としてどのようにするのでしょうかうまくいかなくても突き進むのでしょうか（既存住宅の義務化など）	【主催者】2050年の脱炭素社会の実現に向けて、区民の皆さまのアイデアも引き出しながら、様々な取り組みを検討し、試行錯誤を重ねながら目標達成に向けて取り組んでいきます。
③	うまくいかないミッションがあったとします その代替案はあるのでしょうか	

第 1 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (8/8)

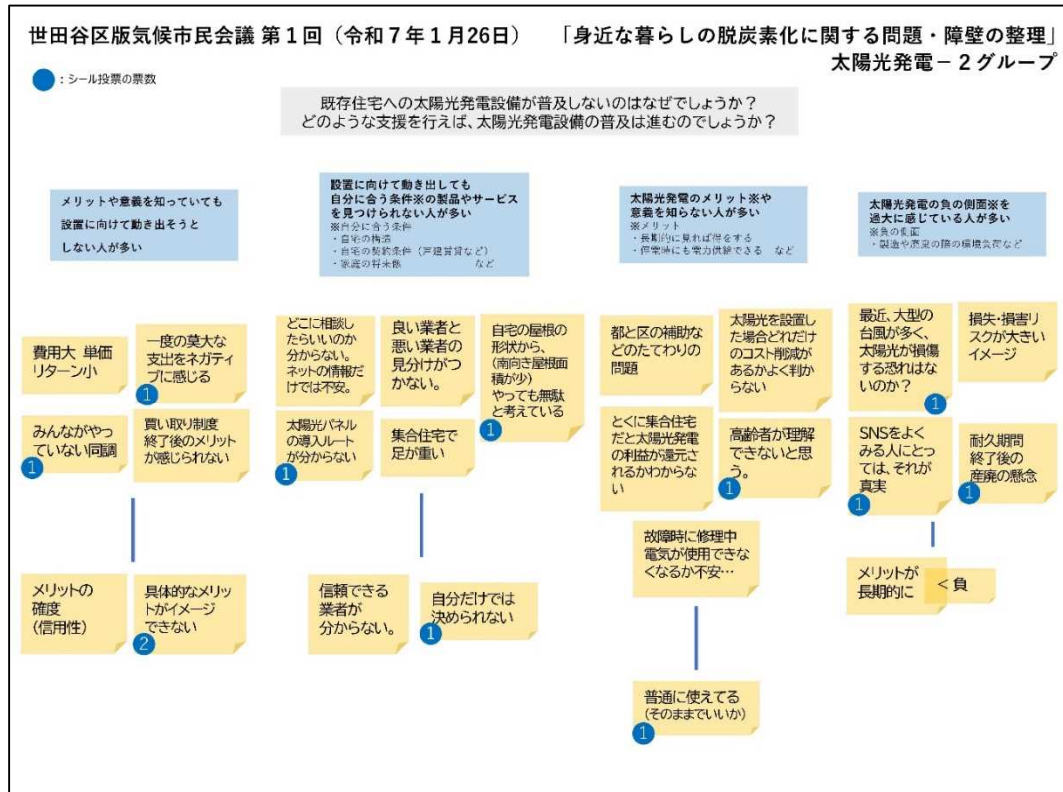
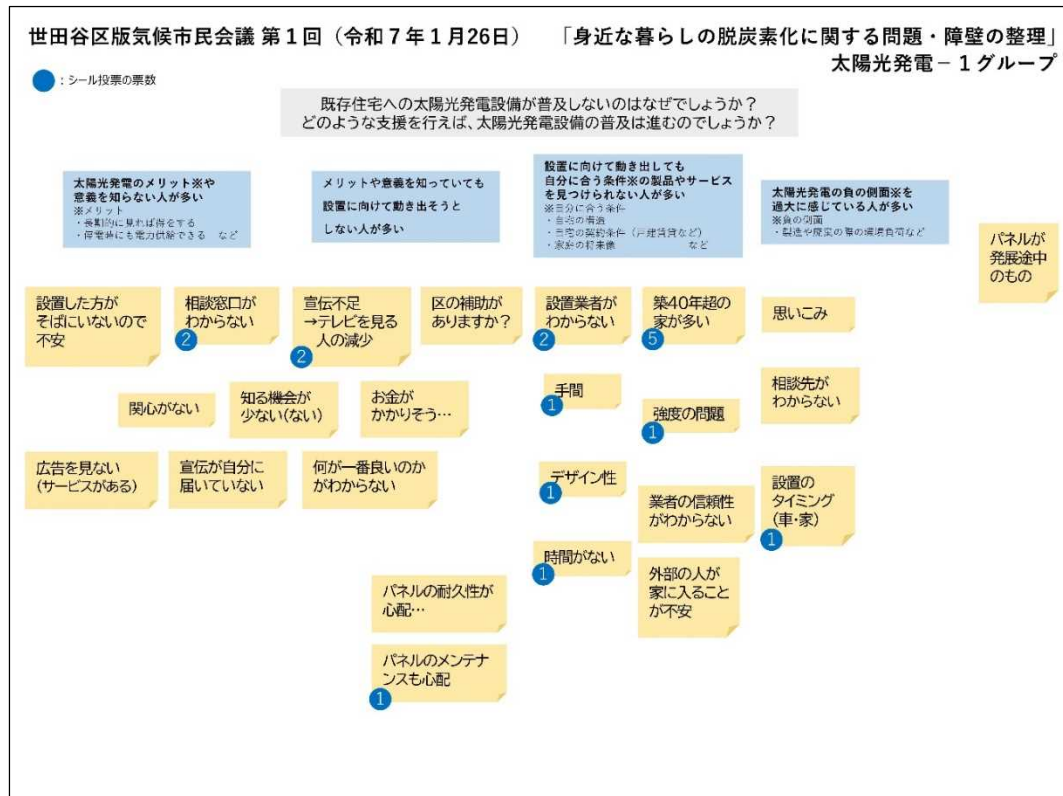
【会議の内容】

No.	意見・質問	回答
①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議論の時間がもう少しあると有益かと思います。とてもいい取り組みだと思いました！ ・ 大変勉強になります。もっと議論の時間があってもよいなと感じました。運営の皆様ありがとうございました。 ・ グループで話し合う時間がもう少しあった方がよい。 ・ グループワークの時間が短いと感じました他のグループの結果共有などもっと時間を割いてもいいのではないのでしょうか ・ 3 時間半ある会議でしたが、時間に追われる状況だったので、具体的な議論→政策に落としこめるような時間が次回からもっとあるといいなと思いました、おもしろかったです！ ・ 制限時間があるとはいえ、こま切れすぎて、みなさんの意見をしっかりきけなかったのは残念（特に若い子の発言をひき出せてあげられず、申し訳ないし残念だった。また、もともとテーマが決まっているなら、話はそこから始めても良かったのでは？ ・ 細かくタイトなスケジュールが組まれていたので、時間調整のためかテンポが速くてついていけない部分がありました。ゆとりある内容だと嬉しいです。 ・ 内容を詰め込みすぎると感じた。 ・ 勉強不足でなかなかついていけませんが、理解が追いつくようにがんばりますので、引き続きよろしく願いいたします。 	<p>【事務局】第 1 回会議は、じっくり考える時間やグループで話し合う時間が短くなり申し訳ありませんでした。</p> <p>皆さまのご意見を踏まえ、第 2 回～第 3 回会議は、①専門家の話を聞いて情報を得る、②グループワークのなかで様々な取り組みを検討する、③全体で結果を共有する、ということ、ゆとりをもって進められるように時間配分を検討していきます。</p> <p>特に第 2 回会議については、身近な暮らしの脱炭素化に対する取り組みを検討する重要な回ですので、このグループワークの時間を、第 1 回会議のグループワークと比較して約 2 倍となるように設定しました。</p>
②	グループ分けは予め、名札に明記して頂きたかった。勘違いして別のグループに途中まで参加していたメンバーがいた。	<p>【事務局】グループ名が分かりづらく申し訳ありませんでした。</p> <p>ご意見を踏まえ、第 2 回～第 3 回会議では、受付に会場のグループ配置図を掲示して案内することにしました。また、あらかじめ名札をグループにおいて置くことで、自分が座るグループが分かるようにしました。</p>
③	グループワーク時、付箋に書く筆記具が太すぎて字が汚くなり読みにくくなるので細字タイプの筆記具がほしい。	<p>【事務局】基本的には、少し離れたところからも字が読めるように、第 1 回会議と同じマーカーを使っていたかと良いと思いますが、書きづらい方に配慮して、各グループに細字タイプのものも数本ずつ配付することにしました。</p>
④	この会議の最終日に 太陽光発電を設置 再生可能エネルギーに 断熱気密など住宅改修 日常生活において脱炭素行動を したい したくない すでにしている 現時点ではできない (保留) というような感じで 4 つのミッションについて アンケートを取ることは可能でしょうか 「その理由」を書いてもらって参考になるのではないかと思います	<p>【事務局】ご提案いただきありがとうございます。4 つのミッションに対する参加者自身の取り組みの方向性をお聞きするのは、良い考えだと思いますので、第 3 回会議の際のアンケートに設問を用意する方向で検討します。</p>

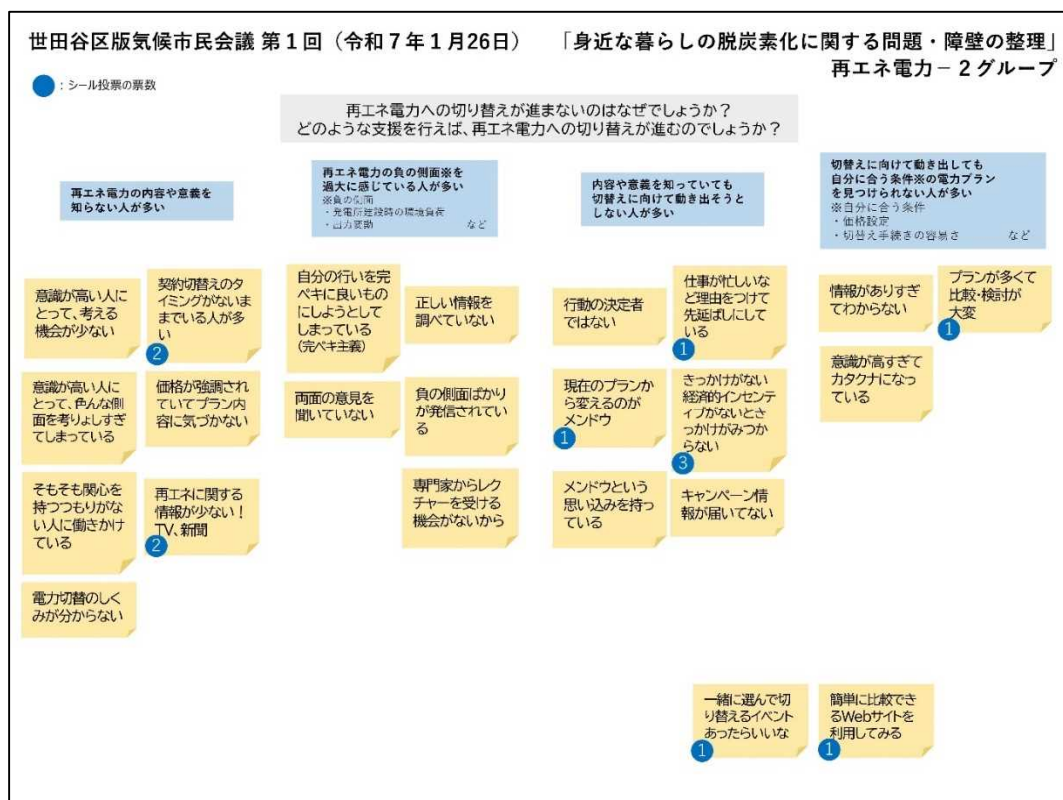
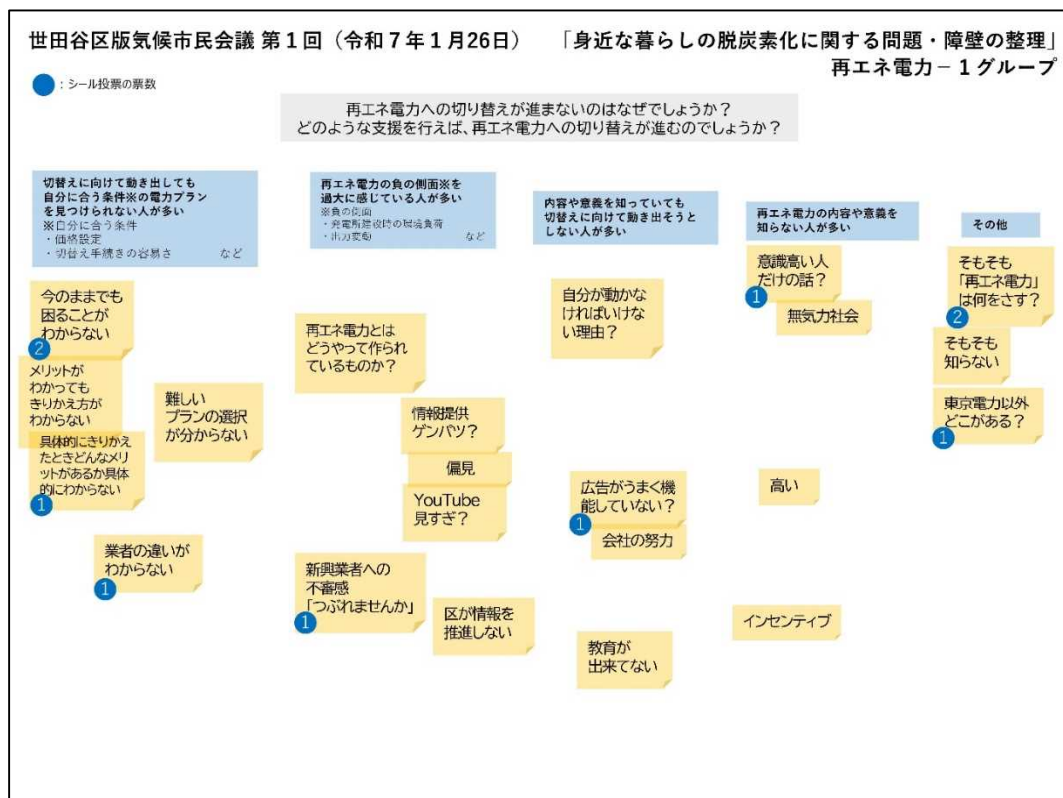
(5) グループワークの成果

第1回会議のグループワークの成果を以下に示します。なお、拡大版はWEB上に公開しました。

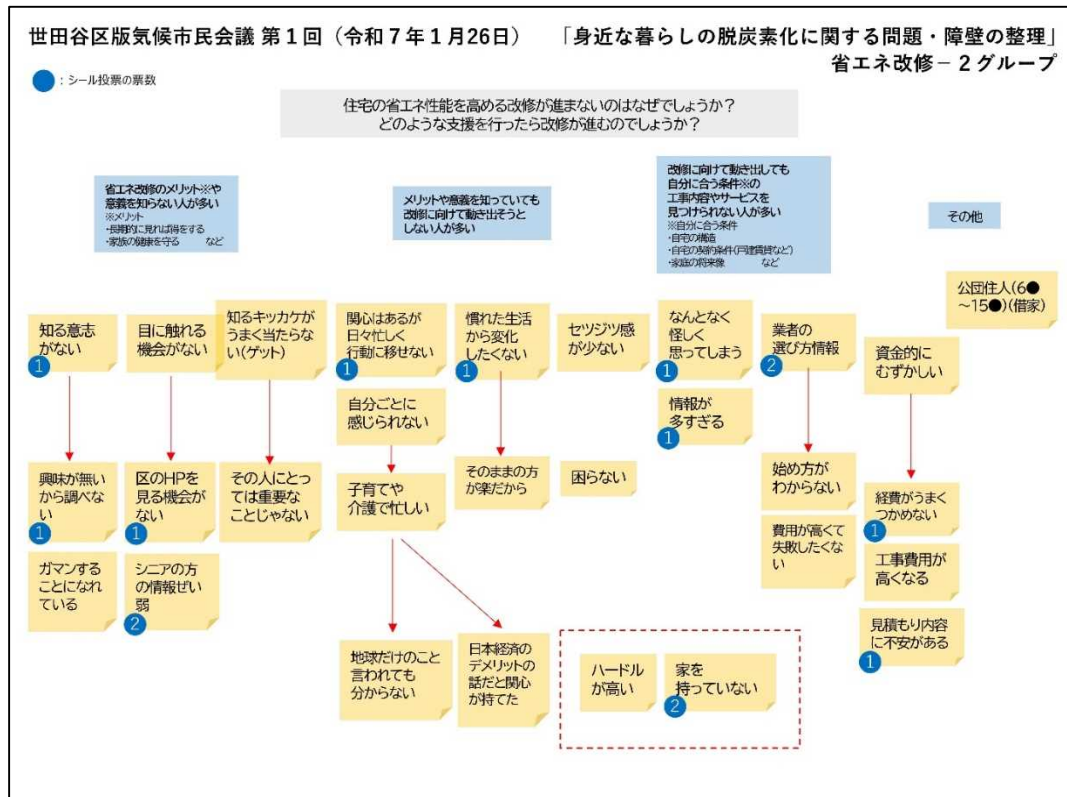
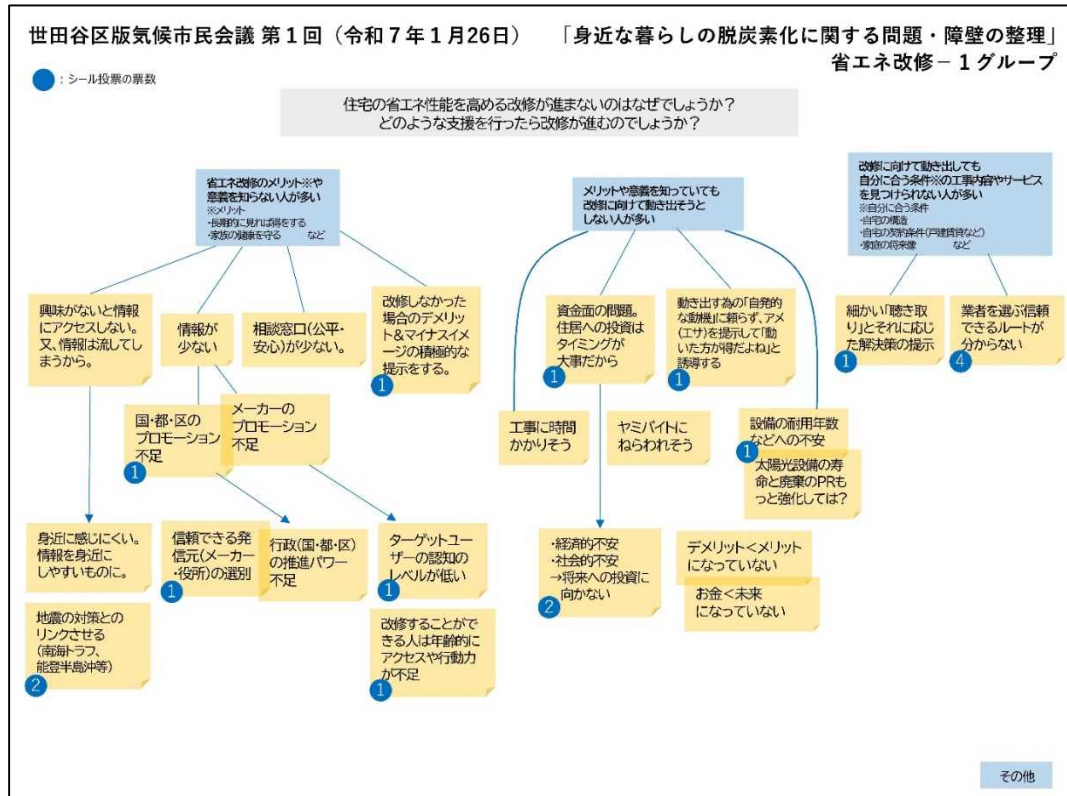
1) ミッション① 太陽光発電設備の設置



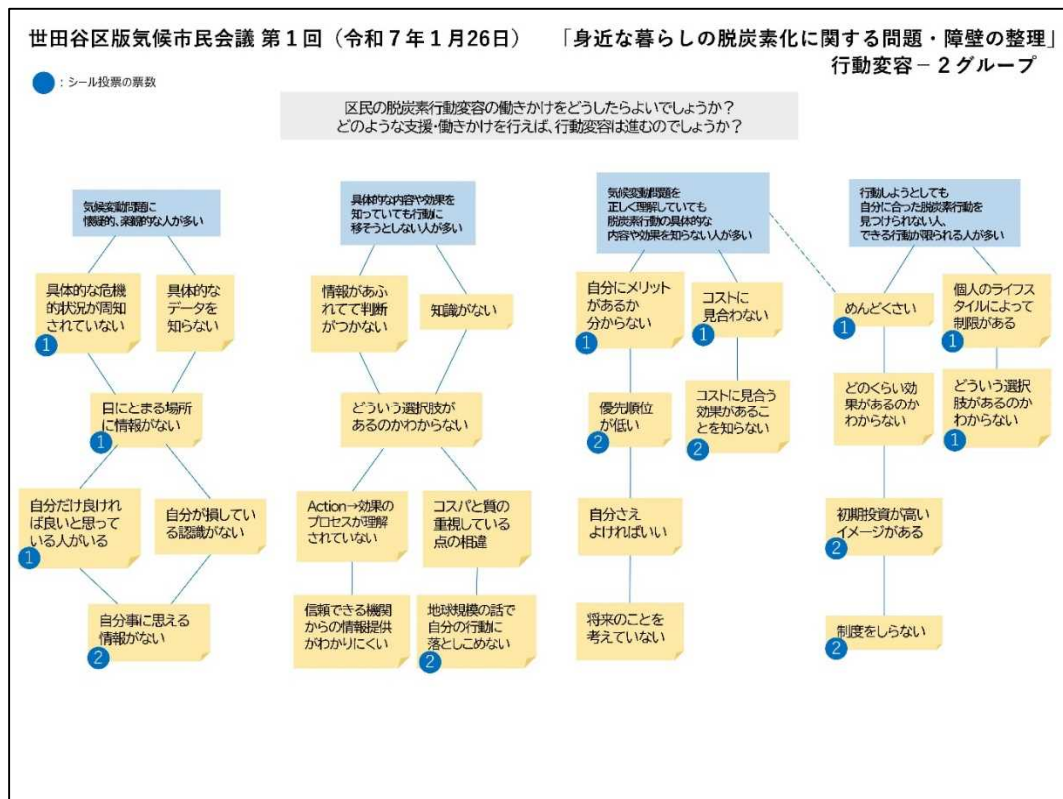
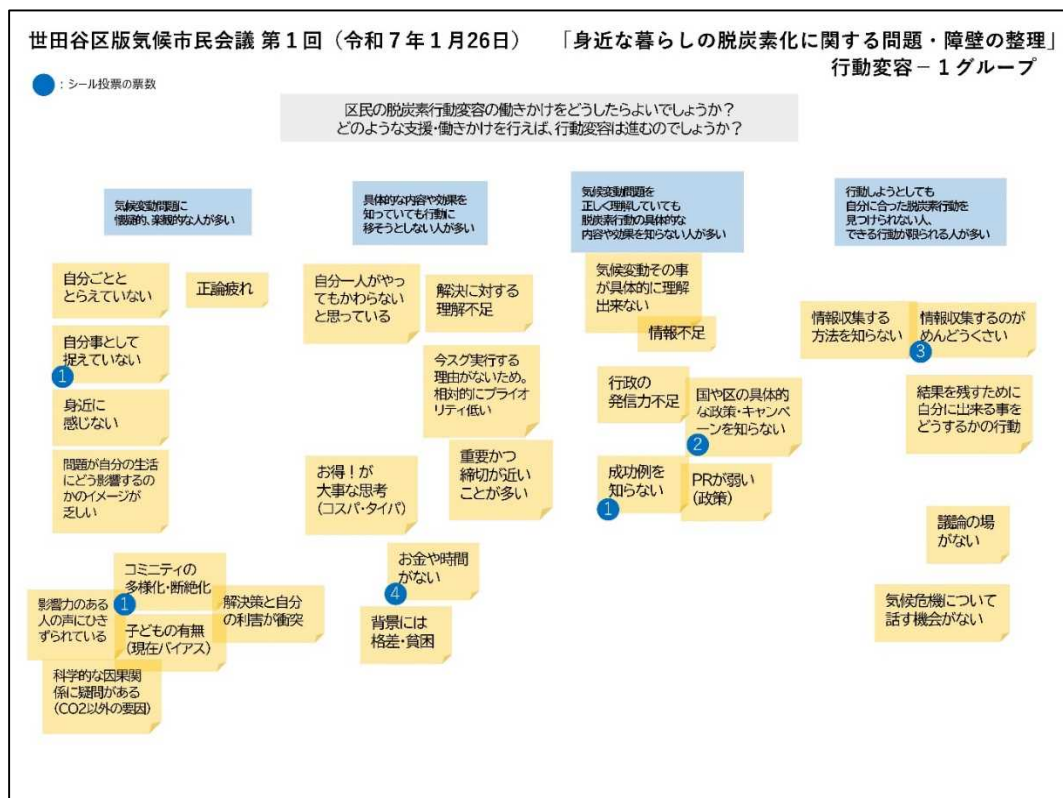
2) ミッション② 再生可能エネルギー電力への切替え



3) ミッション③ 住宅の省エネ改修



4) ミッション④ 脱炭素行動変容



(6) 感想など

【講演に対する感想】

- ・ 地球温暖化のしくみやシミュレーションによる 75 年後の気温の変化がよくわかりました。今の赤ちゃんやこれから生まれてくる人々が深刻な環境で生きて行く事を強いられることについて、心苦しく感じます。まずは地域の組織に参加することから、取り組むことができると感じたので、自分のできることから始めて、周囲の人に危機感を伝えていきたいと思います。
- ・ 大変勉強になりました。自信がインフルエンサーとなり、再エネを広め、カーボンニュートラルに貢献したいと考えるようになりました。また、産学官の連携が大切だと考え、自身が勤務する業界を通して何か貢献できないか考えたいです。
- ・ 家庭で取り組める脱炭素活動が分かりやすかったです。再エネ電力切り替えだけでなく、個人でも事前調査など準備しておけば、エコ活動が可能であると感じました。自宅の給湯器はあと数年で交換予定のため、エコキュート導入を検討することや、冷蔵庫が 20 年以上使用している旧式なタイプなので、省エネタイプに入れ替えが必要という事を考えられるようになりました。
- ・ わかりやすく講演していただきありがとうございました
- ・ 素晴らしい内容で大変勉強になりました。
- ・ 詳しい説明ありがとうございました。

【その他の意見・感想など】

- ・ 班に分かれて少人数だったので意見も言いやすかったです 普段考えたことも無い問題に触れられて有意義な時間でした
- ・ 本日参加する事で気にしなかった部分の温暖化や脱炭素計画を知る事ができグループで話し合いし色々な考えを聞くこともでき勉強になりました。
- ・ 気候に対応する必要性をととても強く感じました。そこで太陽光など身近で出来ることを知りました。しかし、対策は大きな問題でひとりひとりの前向きな行動と地域の働き掛けなどに多くの仕組みが必要と感じ、良い前進に繋がって欲しいと思います。
- ・ 打つ手はあまりないのかと思っていたが、ここまで CO₂ 排出は減らすことができている、世田谷区は各家庭の太陽光発電の導入が鍵で、それが実現すれば、我慢ばかり強いられる生活ではないこと知り、明るい気持ちになった。こうした良い情報も発信していけば、区民のモチベーションもあがるのではないかな。
- ・ 区長が紹介されていた世田谷区教育大綱のことは全く知りませんでした。脱炭素の取り組みにも同じことが言えるかもしれませんが、正しい真っ当なことをいかに広く伝えていくか、過激ではない適切な情報発信の大切さ、難しさを感じました。
- ・ 特に問題なしスムーズでした。
- ・ 貴重な機会に参加できて有意義です。次回もよろしくおねがいたします。
- ・ 上手く運営されたていると思います。ご苦労さまです。

2 第2回会議

(1) 会議の概要

日 時：令和7年2月16日（日） 13:00～16:30
場 所：世田谷区立教育総合センター 研修室（たいよう）
参加者数：34名
テ ー マ：暮らしの脱炭素化について考えよう！
講 師：
前 真之 氏（東京大学大学院 工学系研究科 建築学科専攻 准教授）

(2) 会議のプログラム

第2回会議のプログラムを以下に示します。なお、会議資料はWEB上に公開しました。

第2回会議のプログラム

時刻	時間	プログラム
13:00～	5分	開会
13:05～	10分	【グループワーク】参加者同士の自己紹介と近況報告
13:15～	10分	第1回会議の振り返り
13:25～	10分	【講演】家庭部門の脱炭素（前 真之 氏）
13:35～	5分	質疑応答
13:40～	10分	休憩
13:50～	5分	グループワークの進め方
13:55～	65分	【グループワーク】 脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討（前半）
15:00～	10分	休憩
15:10～	15分	中間講評、質問の受付と回答
15:25～	45分	【グループワーク】 脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討（後半）
16:10～	5分	グループワーク結果の共有
16:15～	5分	まとめ（前 真之 氏）
16:20～	5分	政策提言のとりまとめまでの流れ
16:25～ 16:30	5分	閉会、事務連絡

(3) 当日の様子

【講演の様子】



【講演】家庭部門の脱炭素（前 真之 氏）

【グループワークの様子】



【グループワーク】脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討

(4) 講演等に対する質問と回答の内容

第 2 回会議の講演等に対して参加者からあがった質問とそれに対する回答の内容を以下に示します。なお、参加者からあがった質問には、会議終了後に行ったアンケートに記載された質問も含まれます。また、この質問と回答は、後日参加者全員に開示するとともに、第 3 回会議の際に配付しました。

第 2 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (1/4)

【太陽光発電とその他再生可能エネルギー】

No.	意見・質問	回答
①	集合住宅に居住中のため太陽光パネル取り付けは難しいので、ベランダに置いて蓄電できるようなものを設置したいです。(ペロブスカイト?) 折り畳み式の物でベランダや公園で充電している海外の方がいらっしゃる番組をTVで観たことがありますが、日本ではまだまだ実現は難しいのでしょうか。	【前氏】ドイツではベランダに取り付ける太陽光発電パネルもあると聞いたことがありますが、日本ではまだ商品事例はないように思います。簡単なのは、1kWh 程度のポータブル蓄電池に併用する 200W 程度の小型パネルのセットは便利かなと思います。昼に外で充電して夜は家の中に持ち込めば、配線工事も不要で電気が使えます。
②	太陽光はエネルギーの地産地消になる可能性がとても高いのに、普及促進に向けてもっと本腰を入れるべき行政の腰が引けているのはなぜなのでしょう。	【前氏】それは私も知りたいことなのですが(笑)、正直よく分かりません。太陽光発電が優れているのは世界の常識であり、日本でも使って喜んでいる人がたくさんいるのですが、政府の後押しはトーンダウンしています。たしかに 2012 年の FIT 導入時に急ぎすぎて問題があったのは事実ですが現状では大概解消されているのですが。粗探しして面白いネット界限も問題ですが、本当に再エネで済まされると困る、化石燃料の輸入商社・重工業企業・エネルギー事業者が、政党や政府とどのように働きかけているのか……。やはり国民・住民が生活に不可欠なエネルギーを自分事として考えるのが大事です。
③	太陽光発電機の製造にかかる CO ₂ 排出量はどの程度ですか。20~30 年間使用する前提なら無視できる程度でしょうか。	【前氏】国際エネルギー機関 IEA の評価では、太陽光パネルが製造時のエネルギー償却に必要な期間は単結晶シリコンで 1.2 年とされています。 https://iea-pvps.org/wp-content/uploads/2022/11/Fact-Sheet-IEA-PVPS-TI2-23-LCA-update-2022.pdf 太陽光パネルは低コスト化やレアメタル利用削減が進んでおり、エネルギーペイバックはますます有利になっています。

第2回会議の講演等に対する質問と回答の内容(2/4)

No.	意見・質問	回答
④	<ul style="list-style-type: none"> 再生エネルギーの利用が増えない理由として、電気事業者にとっては再生エネルギーよりも従来通りの電気を流通させる方が都合がいい点があるのでしょうか？ 電力自由化に於ける送配電分離の料金体系の内容と又ベースロード電源に位置づけられた原子力発電周辺の電力自由化に於ける料金負担の動向 	<p>【前氏】やはり、今まで通りの大規模発電所から一方通行で電気を送り売る方が旧一般電気事業者には楽ですね。ただ一方で、発電にかかる化石燃料の価格変動に振り回されたくないのも、本業の邪魔にならない範囲で再エネを少しずつ受け入れている・・・という感じでしょうか。</p> <p>2016年に電力小売りは完全に自由化されていますが、かつて地域を独占していた旧一般電気事業者の発電・送電・小売りが完全に分離され、新電力にフェアに市場が開放されているか・・・という疑問が残ります。電力卸市場での価格高騰や供給不足騒ぎを経て、電力自由化への機運はトーンダウンしているのが現実でしょう。</p> <p>原子力発電をどう考えるか・・・はとても簡単には言えませんが、原発さえ再稼働すれば全てが解決するかのような一部発信者の発言には強い疑問を感じます。原発もかつてのように低コストで稼働することは不可能なはずですし、地震対応、将来への負の遺産も心配です。</p>

【その他家庭部門の取り組み】

No.	意見・質問	回答
①	テレビ朝日のコメンテーター玉川徹さんの「ラジタマ・企業レポート」家の「断熱」の重要性とは？という Youtube の動画の中で某住宅設備機器メーカーさんが近畿大学と調査したデータではエネルギーコストに加えて医療費や薬代も減るとの情報(16.15 頃)がありました。もし、医療費等が減るのであれば訴求力になる情報と思われそうですが、企業と大学との調査結果をエビデンスとして使えるものでしょうか？行政は行政でさらにデータを集め裏付ける必要はあるのでしょうか？	<p>【前氏】国交省を中心としたスマートウェルネス調査として、断熱による室内環境改善による健康向上効果が明らかになっています。それ以外にも、たくさんの調査で室内環境と健康の関係が明らかになっています。</p> <p>ただ私個人は、健康の確保はあくまでミニマムだと思っています。ヒートショックや熱中症にならないことは最低限の話であり、みんなが楽に楽しく暮らせるためには、十分なレベルの快適性を確保した上で、断熱や設備の省エネ+再エネで電気代ゼロ・CO₂ゼロで済ませるのが王道と考えています。</p>

【教育】

No.	意見・質問	回答
①	前先生がお話しになった言葉で、生きる為にどうしたら良いかを考えること！と伺い、とても大切に感じました。現在の小、中、高校の教育は分かりませんが、教育の一つとして学ぶと良いと感じました。現在、教育の中で指導は行われているのでしょうか？	<p>【前氏】小学校の家庭科などで、最近は住まいについても触れるようになっていると聞いています。健康や省エネについて理解してもらうことは大事だと思います。ただ、実際に社会に出て家選ぴをキチンとできるかという、それは不十分でしょう。特にお金について全く教えていないまま社会に放り出されているのは問題です。住宅価格が高騰する中、暮らしと住まいをどうするか、みんながよく考える必要を強く感じます。</p>

第 2 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (3/4)

【会議の内容】

No.	意見・質問	回答
①	<ul style="list-style-type: none"> 「脱炭素化が進まない原因」の分類が不明確かつあいまいなのでもっと整理してほしい。議論が重複しやすく、論点が見えにくい。 議論する時間が十分に与えていただいた点がとても良かったです。他方、論点(=課題)の要素分解が MECE でなく数も多いため同じような議論を繰り返す格好となったので論点の数を MECE な形で絞り込まれていると良いと思いました。実際には複数の課題を同時解決する施策を考案することになるかと思しますので、その簡単からも論点は絞り込まれているほうがスムーズかと考えます。本日もありがとうございます。 	<p>【事務局】貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>第 1 回会議のグループワークの成果をもとに、第 2 回会議の論点が明確になるように分類したのですが、事務局側でグループワークの成果を大きく逸脱させるようなとりまとめは、議論の方向性を誘導することにも繋がりがねないため、慎重にあつきました。</p> <p>今後ともご意見を踏まえ、わかりやすいとりまとめと、論点の整理ができるように心がけていきます。</p>
②	<p>時間に追われ中途半端な議論になってしまったのが残念です。お金をかけてよいツールやサービスを作っても知られないなら意味がなく、いかに関心のない人たちや困っていない人たちの心に響き、情報が届かない人たちに伝わるようになるのかに知恵を出し合い、この限られた時間ならば問題点 1 を掘り下げて政策提言にもっていくぐらいが丁度よかったのではと個人的には思いました。</p>	<p>【事務局】貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>ご指摘のように、いかに関心のない人たちや困っていない人たちの心に響き、情報が届かない人たちに伝わるようになるのかに知恵を出し合うことは重要ですが、今回は 2050 年に向けた目標を実現するため、関心を持つ段階から実際に行動に移すまでのすべての段階について、取り組みを検討していただくことを選択しました。</p> <p>第 3 回会議では、議論を深掘りできるようなグループワークとなるように心がけていきます。</p>
③	<p>内容・運営は、私の学術・科学団体での 37 年 10 か月にわたる事務局経験からも、評価しております。質問です。私たちの SDGS の努力を一瞬にして無どころかマイナスにする大自然災害(火山、洪水、ツナミなど)・人工災害(戦争・紛争・内乱、原子力発電事故・廃棄物処理など、優先順位が先送りされている公共インフラ整備など)に触れる必要があると思う。</p>	<p>【事務局】貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>ご指摘いただいた災害や事故、公共インフラ整備にも触れながら議論することは重要ですが、今回は限られた会議時間のなかで、身近な暮らしの脱炭素化を実現するための話し合いに集中できるような構成としました。ご理解いただけますと幸いです。</p>

【会議の運営】

No.	意見・質問	回答
①	<ul style="list-style-type: none"> コメンテーターの声が聴き取りにくい。マイクの感度が悪いのか、使い方が良くないのか、せっかくのコメントがはっきり聞こえなかった。 会場が広いのでグループ討議の時声がまるで無響室で聞いているようで聞きにくいので苦勞した。 	<p>【事務局】聞き取りづらい場面があり申し訳ありませんでした。第 3 回会議では、できる限り聞き取りやすいマイクの音量になるように心がけていきます。グループワーク中については、会場の構造上改善が難しい部分もありますが、聞き取りづらい場面があれば、ファシリテーターが発言を整理するなどしてできるかぎりグループワークに集中できる環境となるように心がけていきます。</p>

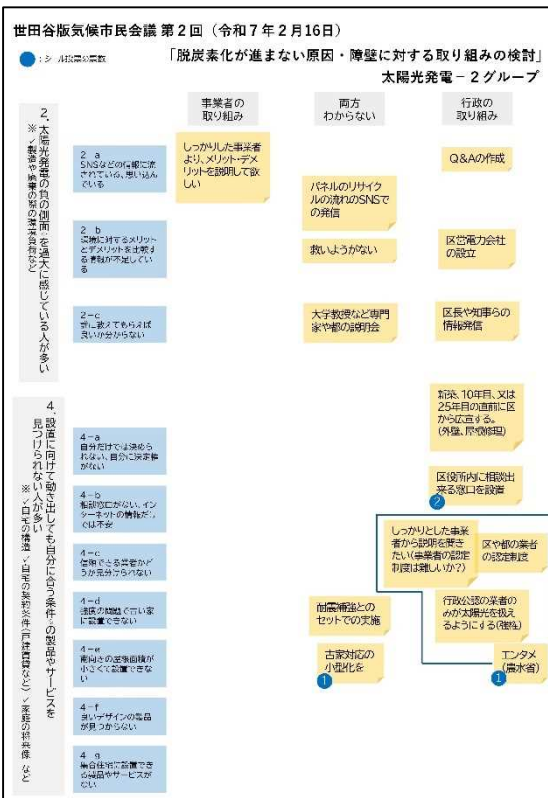
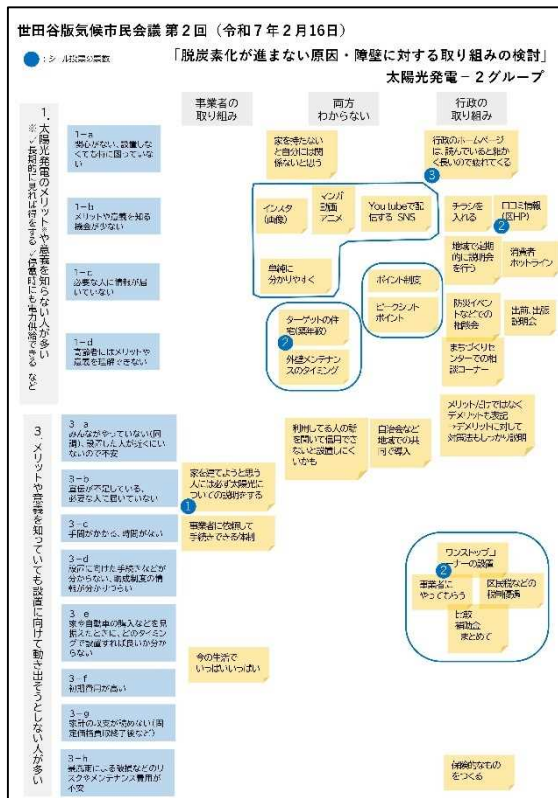
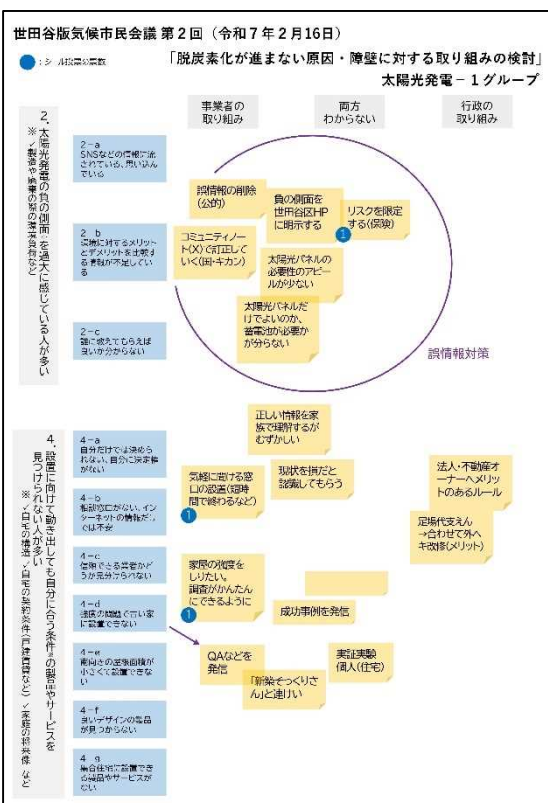
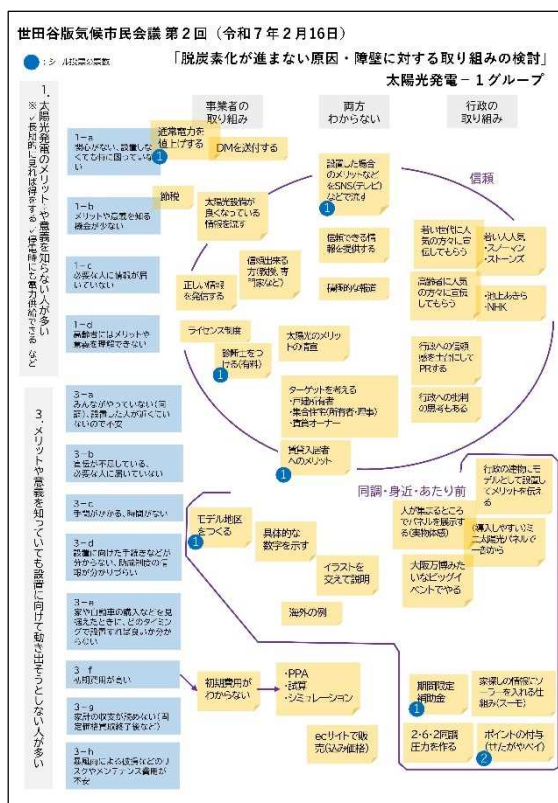
第 2 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (4/4)

No.	意見・質問	回答
②	前回は踏まえた議論をしていく中での途中増員はしない方がよいのではないかと思います。議論時間が増えたのは、とてもいいと思いました。	【事務局】体調不良や急用などの理由により、一部の会議を欠席される方もおり、途中増員や人数調整のためのグループ間の参加者の移動はやむを得ないと考えていますので、ご理解いただけますと幸いです。
③	長時間の会議なので、飲み物を用意してほしかった。	【事務局】省資源化の視点で水筒（マイボトル）を持参されている方もおり、飲み物の受け取りを希望しない方もいると考えています。脱炭素化に向けた取り組みを検討する会議ですので、廃棄物の増加に繋がりにくい飲み物の配付は控えさせていただきました。なお、施設内には水筒（マイボトル）に飲料水をそそぐことができる給水機も設置していますので、是非、ご利用いただければと考えています。

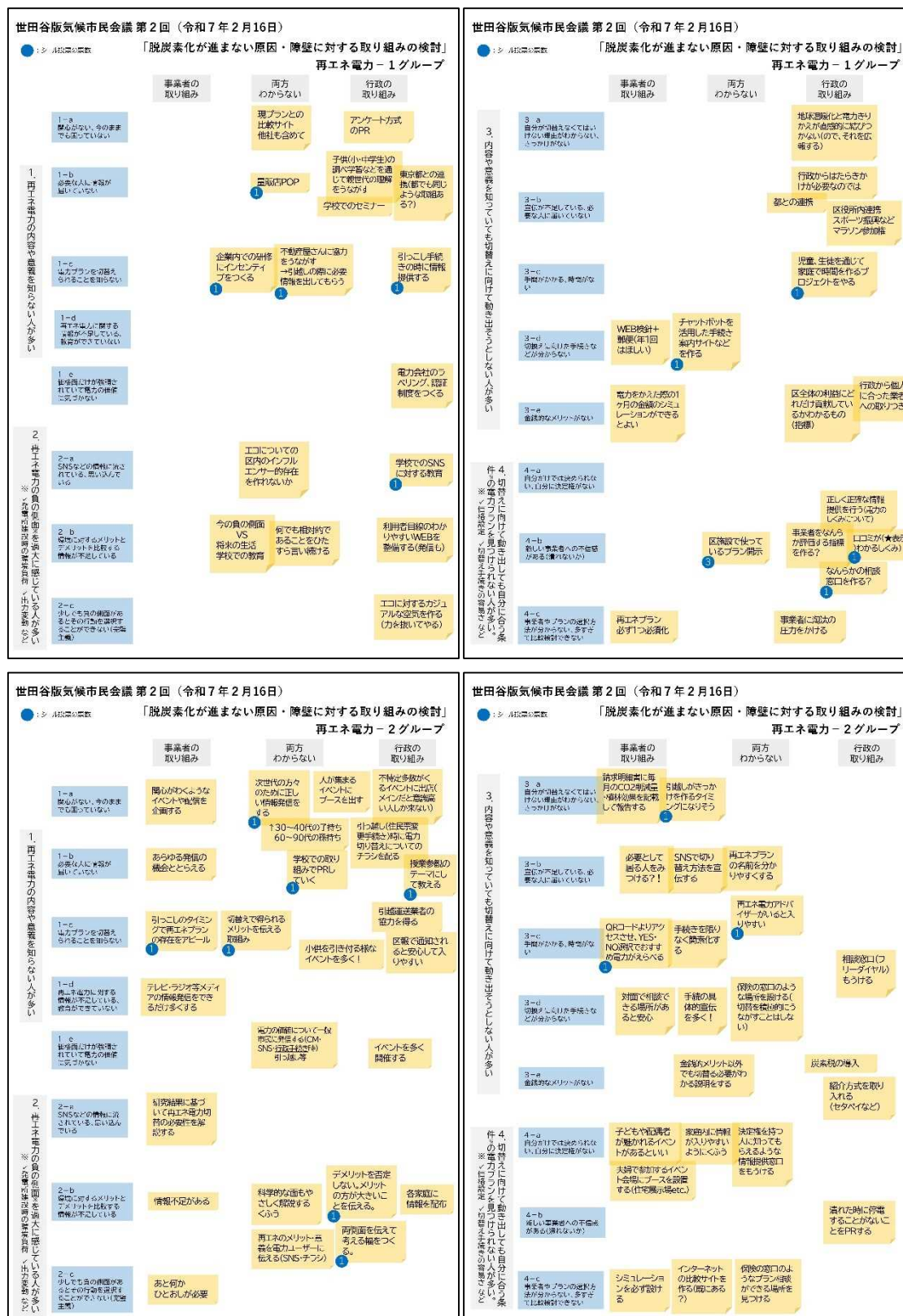
(5) グループワークの成果

第2回会議のグループワークの成果を以下に示します。なお、拡大版はWEB上に公開しました。

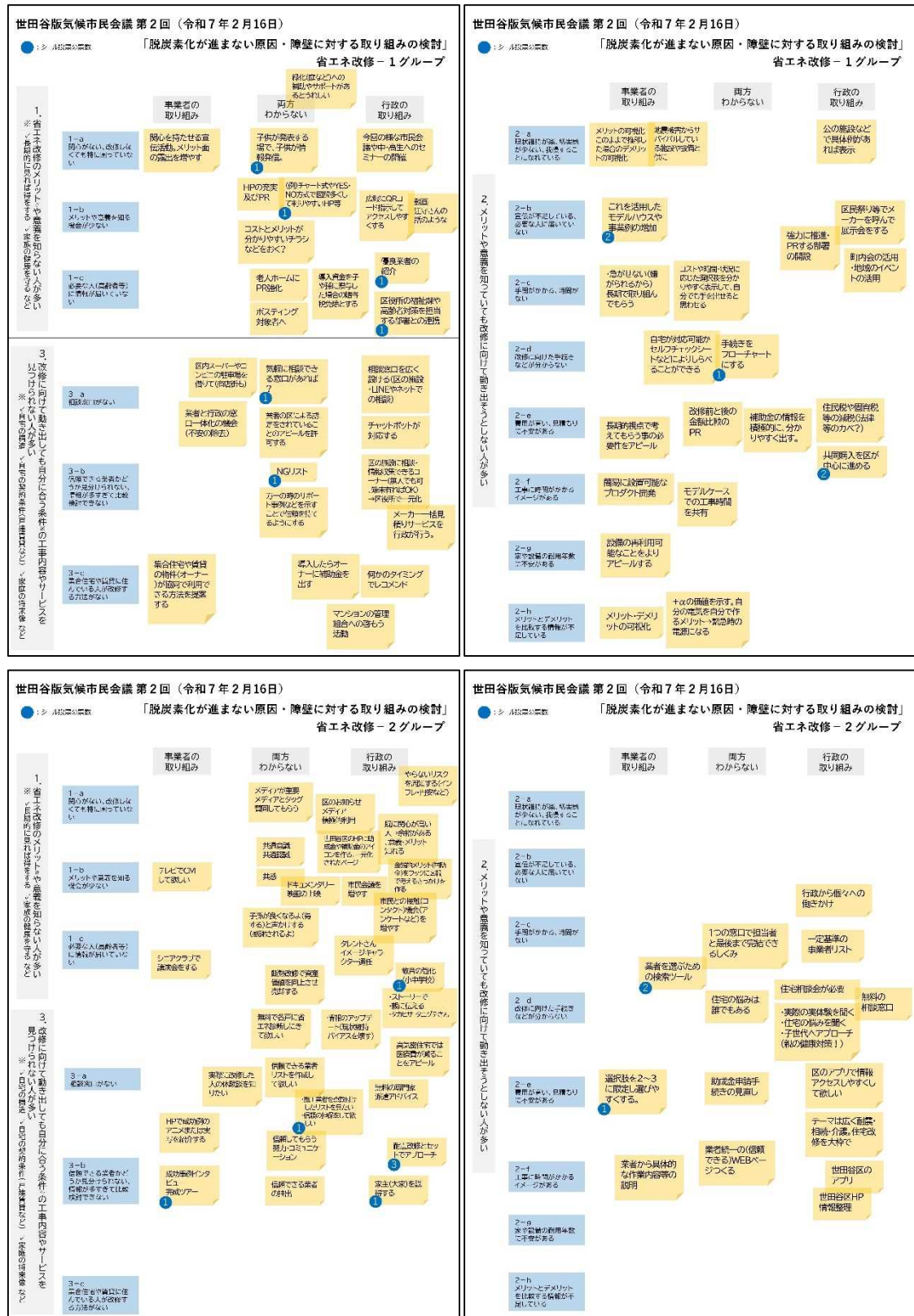
1) ミッション① 太陽光発電設備の設置



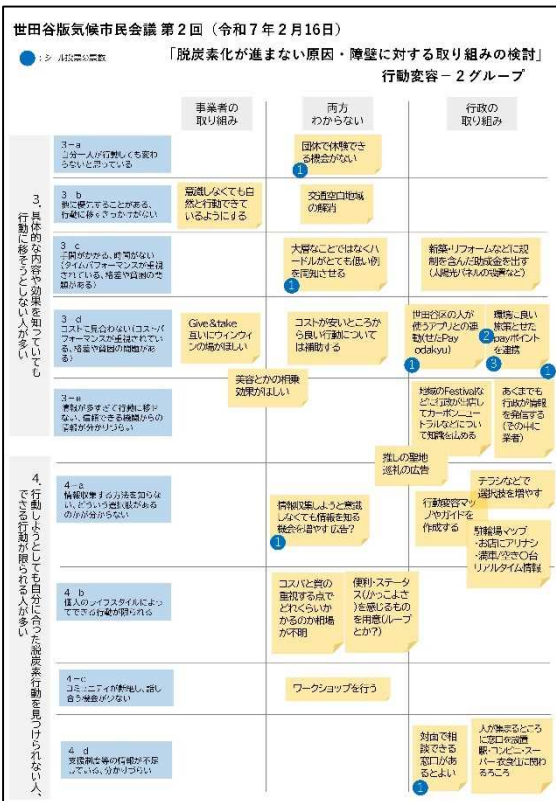
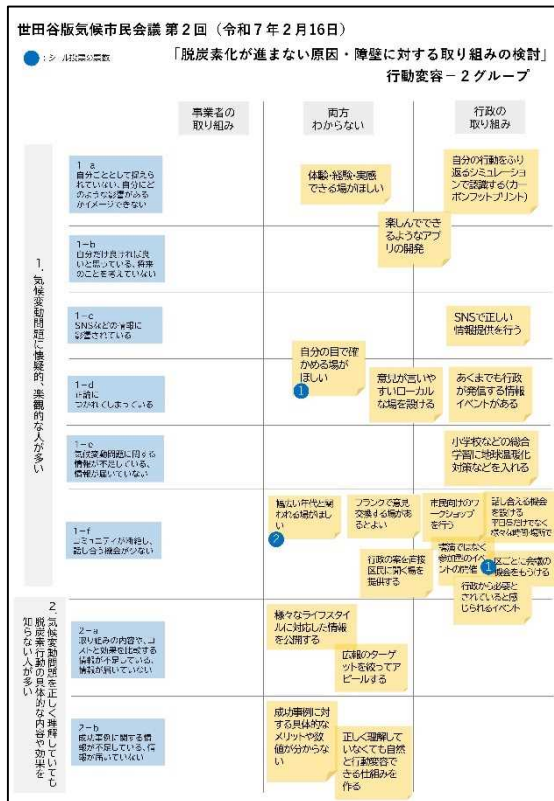
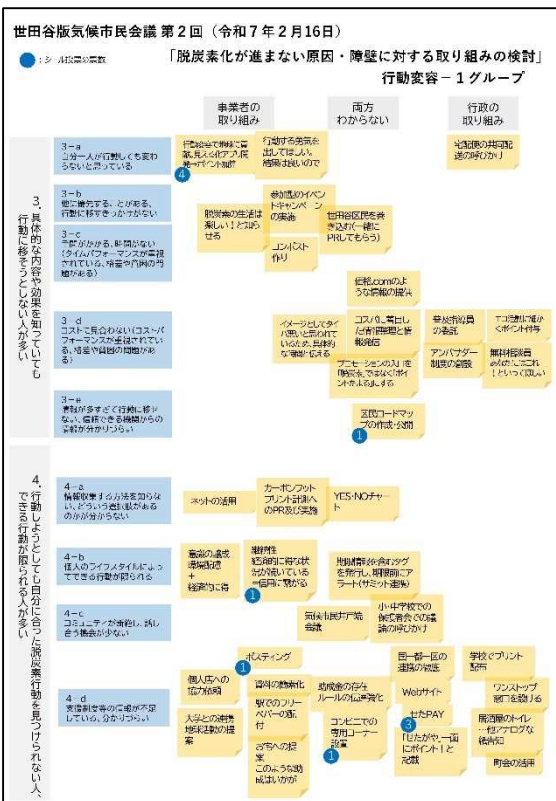
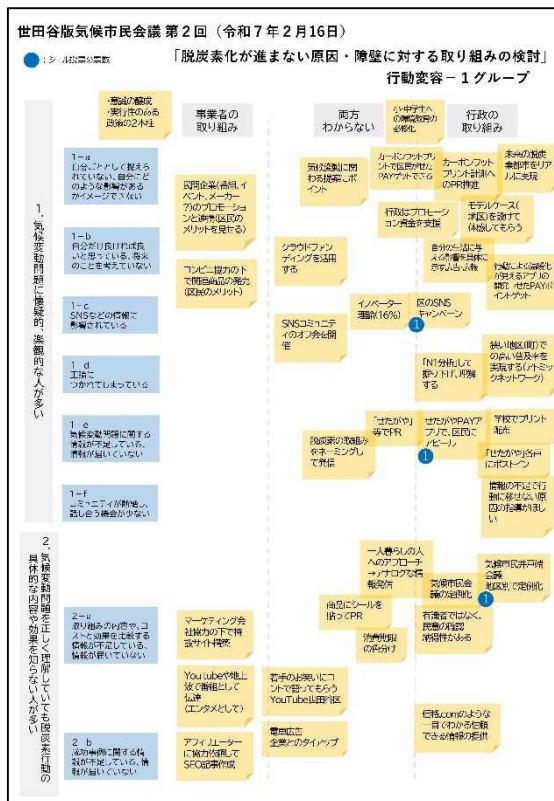
2) ミッション② 再生可能エネルギー電力への切替え



3) ミッション③ 住宅の省エネ改修



4) ミッション④ 脱炭素行動変容



(6) 感想など

【講演に対する感想】

- ・ 前回、今回と非常に貴重なレクチャーありがとうございました。前回の質問にも明確に答えていただきありがとうございました。
- ・ 前回質問した内容に真摯に向き合いお答えくださった資料は大変勉強になりました。気候問題だけでなく、自分の今の暮らし、周りの家族の暮らしが本当に幸せなのか、また、今各々が考え、向き合う事はなんなのか、広い観点から学ぶ事の大切さを気付く機会を頂いたと感謝しています。 前回よりも、より親しみやすく理解が深まるお話もとても良かったですと思いました。 この会議に参加した意味、今後自分の立場で出来ることを考えていきたいと思いました。
- ・ いやー、面白かった。前さんの知的格闘の歴史を聞きたいな。QA は、江守さんのも含めて、講義を深く理解するには必須でした。
- ・ 前さんのお話して環境対策は先延ばしにせずにすぐに始めるべきだと思いました。

【その他の意見・感想など】

- ・ 本日も濃い話し合いが出来、有意義な時間でした。ありがとうございました
- ・ いつも分かりやすく会議の内容を整理いただきありがとうございます。次回が最後の参加となりますが、引き続きよろしく願いいたします。
- ・ ゆとりをもってグループワークの話し合いが出来て良かった。
- ・ 前回より意見交換の時間が多くて良かったです。 具体的な話や質問など出来て有意義でした。
- ・ ありがとうございました。 グループの進行がとても良く、意見が出やすく進められて、楽しく参加させて頂いています。 脱炭素化について多くの方に知って欲しいと強く感じています。 脱炭素化の必要性が区民に届くよう区の働き掛けに期待しています。
- ・ 市民会議に参加し、意識が高まったのは間違いないと思います。 3 回でゴールを皆で目指す方法はじっくりと考えることができ良いと思いました。 また、脱線しがちなディスカッションの場面ではファシリテーターの方が適切に軌道修正して、現在やるべき事にもどることも出来、最終な達成感や、意識が高まる事につながるのではないかと思い、全体的に前向きに参加させて頂きました。
- ・ 気候危機について知識が入った上でグループ議論の時間が今回は多かったので有意義だった。意外と？今の時代にリアルコミュニケーション(直接対話)の場は貴重であり、必要なのかなと思った。ぜひこのような場作りを継続して行ってほしい。
- ・ グループワークで自分では考えられなかった事が出て、その内容を話し合うのが良かったです。
- ・ 貴重な会議なので、区や都、さらに国を突き動かすようなより尖った提言につながる会の活発な運営を期待しています。

3 第 3 回会議

(1) 会議の概要

日 時：令和 7 年 3 月 2 日（日） 13:00～16:30

場 所：世田谷区立教育総合センター 研修室（たいよう）

参加者数：32 名

テ ー マ：区への政策提言をとりまとめよう！

講 師：

松浦 正浩 氏（明治大学 専門職大学院 ガバナンス研究科（公共政策大学院）専任教授）

(2) 会議のプログラム

第 3 回会議のプログラムを以下に示します。なお、会議資料は WEB 上に公開しました。

第 3 回会議のプログラム

時刻	時間	プログラム
13:00～	3 分	開会
13:03～	7 分	【グループワーク】参加者同士の自己紹介と近況報告
13:10～	5 分	これまでの振り返りと政策提言のとりまとめ方
13:15～	25 分	【講演】脱炭素社会に向けたトランジション（松浦 正浩 氏）
13:40～	10 分	【グループワーク】講演を聞いた感想・質問の共有
13:50～	5 分	講演に対する質問と回答
13:55～	10 分	休憩
14:05～	5 分	グループワークの進め方
14:10～	50 分	【グループワーク】 身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップの検討（前半）
15:00～	5 分	中間講評
15:05～	45 分	【グループワーク】 身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップの検討（後半）
15:50～	20 分	各グループの最終発表
16:10～	5 分	まとめ（松浦 正浩 氏）
16:15～	8 分	政策提言の提出と世田谷区長からのメッセージ
16:23～ 16:30	7 分	閉会、事務連絡、集合写真の撮影

(3) 当日の様子

【講演と参加者からの質問の様子】



【講演】脱炭素社会に向けたトランジション
(松浦 正浩 氏)



講演に対する質問と回答

【グループワークと最終発表の様子】



【グループワークと最終発表】身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップの検討



【政策提言の提出と世田谷区長からのメッセージの様子】



政策提言の提出
世田谷区長と参加者代表の 4 名



世田谷区長からのメッセージ

(4) 講演等に対する質問と回答の内容

第 3 回会議の講演等に対して参加者からあがった質問とそれに対する回答の内容を以下に示します。なお、参加者からあがった質問には、会議終了後に行ったアンケートに記載された質問も含まれます。また、この質問と回答は、後日参加者全員に開示しました。

第 3 回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (1/3)

【脱炭素社会に向けたトランジション】

No.	意見・質問	回答
①	(会議中の質問) ロッテルダムの事例で、行動変容が起こったきっかけのようなものがあれば教えて欲しい。	<p>【松浦氏】(会議中の回答) 急にみんなの行動が変わったというよりは、コツコツとした変化を意識的に早く広げようとしたということがあると感じています。</p> <p>例えば、自転車置き場の事例をお話しましたが、最初からたくさん導入すると反発が起きるため、様子を見つつ倍増させていくことを念頭に、最初は少なく導入しています。それで毎年導入数が増えていき、現在は、仮設の自転車置き場を常設の駐輪場に作り替える段階にまで入っています。</p> <p>このように、少しずつ導入し、「問題ないよね、じゃあもっと増やそうよ」ということを意図的に行い、急加速させていくというやり方をしています。</p>
②	(会議中の質問) イノベーター理論でいうと、最初に取り入れるイノベーターと、あとから取り入れるアーリーマジョリティでは、取り組みをするモチベーションが異なると思う。ロッテルダムの事例で、このような対象による働きかけ方の違い、創意工夫などがあれば教えて欲しい。	<p>【松浦氏】(会議中の回答) イノベーターと言われている人たちは、スマートフォンの時もそうでしたが、EV の購入や太陽光発電設備の設置、再エネ電力への切替えなど、とりあえずやってみようという人たちなので、あまり政策による後押しは必要ないと言えます。</p> <p>その次に、何か後押しがあれば取り入れるという人々がいて、次に強制されれば仕方なく取り入れるという人々がいて、異なる種類の人々がいますので、拡大波及の段階を踏まえて、それぞれへの働きかけ方を変える必要があります。今日のグループワークではそのあたりも意識して進めて頂きたいと思います。</p> <p>ロッテルダムの事例では、最初に仮設の自転車置き場を導入すると、すぐに利用し始める人がいました。これを少しずつ増やしながらか、利用者が増えていくと、今度は、車道を減らして自転車道を増やすなど、トップダウンの施策を進めて行くという進め方をしています。</p>

第3回会議の講演等に対する質問と回答の内容 (2/3)

No.	意見・質問	回答
③	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロッテルダムスのモビリティトランジションを実験例としてあげて頂きましたが、日本ではそのような実験で成功したケースはどれくらいあるのでしょうか。また、今後そのような実験的取り組みに個人が参加したい場合は、どのようにしたらよいのでしょうか。 ・ 世田谷区でも自転車は移動手段としてたくさんの方が使用していると思います 駅前には違法駐輪車があふれて、撤去される自転車も多いです あとは道路の幅が狭いところが自転車にとって危険だと思います ロッテルダムは道の幅も広く見えます うらやましいです 	<p>【松浦氏】国内では「トランジション・マネジメントの成功事例」はまだないのですが、実質的に同様のことが過去に行われて「成功」した事例があり、森・松浦・田崎著「サステナビリティ・トランジションと人づくり」という本の中で紹介させていただいています。たとえば地方創生で有名な徳島県上勝町の事例は、未来志向の取り組みを小規模に始めて拡大波及したことで、町内の産業構造が抜本的に入れ替わりました。持続可能な未来を先取りした小規模な活動はいろいろな人がたくさん始めています。ほんとうに世田谷の未来に向けて拡大波及すべき活動なのかどうかを評価されたうえで、活動に参加されるのが良いと思います。</p> <p>また確かに世田谷では自転車の利用率は高そうですが、道路（走行空間）はまだ自動車中心で設計されています。トランジションの観点では、自転車が走りやすくなるためには、自動車が走りにくくなることも避けられません。自動車の進入禁止や一方通行化、車線数削減による自転車専用通行帯の整備など、世田谷のように道路が狭いエリアではトランジションがまだまだ必要ですし、そのためには各町内などでボトムアップでの実践が期待されます。</p>
④	<p>松浦先生は、他の自治体の気候会議にも関わっていらっしゃるようですが、これまでの気候会議でうまくいった例など教えていただきたいです。</p>	<p>【松浦氏】ここ数年で数多くの気候市民会議が行われていますが、現時点では「うまくいった」かどうかの評価はまだ難しいです。フランスの事例のように、市民提案が規制や事業といった形で実現すれば「うまくいった」ことになりそうですが、現時点ではまだそこまで到達していません。つくば市の事例はその点でかなり実現に近いところまで来ているとは思いますが。</p>
⑤	<p>マクロ（個人）の行動においても、ある程度の団体化が必要と思うと、共に、社会システムと共に行う必要があると思いますが、そこに、どのような結び付けをもつと、個人の行動が発揮できますか？</p>	<p>【松浦氏】（※個人の行動は「ミクロ」レベルとなります）。MLP（マルチ・レベル・パースペクティブ）はざっくり3層に分けていますので、個人だけでなく少人数の集団や企業などもミクロレベルに位置づけられてしまいます。未来を先取りする活動がメゾレベルへと拡大波及していくためには、ご指摘のとおりミクロレベルの活動のつながり（ネットワークング）が必要不可欠です。一般的には「ゆるやかなつながり」がよいと言われます。組織を意識してしまうと、組織を維持することが目的になってしまい、組織内の利害対立が目立ったりして、各自が本来目指していた「持続可能社会の実現」から目がそれてしまいます。しかしまた、いろいろな活動が連携して社会に対して存在感を示し、拡大波及を加速させることは重要ですので、たとえば区役所がその声かけ役になったりとか、あるいは、まちづくりのイベントの主催者が人と人をつなぐ役割を担ってもらえたりとかすると理想に思います。</p>

第3回会議の講演等に対する質問と回答の内容(3/3)

No.	意見・質問	回答
⑥	SDGS を巡る開発途上国と先進国との食い違いについて、今回の会議でも同質のものを感しました。賃貸集合住宅住民かつ非正規雇用者(低所得層、衣食でギリギリ)と持家者との(SDGS への)食い違いをどう乗り越えるか(税投入の優先順位)?	【松浦氏】「公正な移行(英語で Just Transition : ジャスト・トランジション)」が必要だという意見がこの数年、世界の気候政策の場面でしばしば主張されるようになりました。気候変動に伴うトランジションの過程で、生死にかかわるような影響を受ける人もいれば、すこし「不便」かもしれないけれど豊かな生活を送り続けることには変わらない人も出てくるはず。そのとき、後者への影響が少し大きくなったとしても、前者への影響を最小化すべきというのが公正性への配慮です。世田谷区でもいろいろな方がお住いのはずです。今回の気候市民会議でも、世帯の所得や資産に応じた配慮を含めること(例: 所得に応じて補助率を変える)はとても有効かつ公正な政策提案につながると考えられます。

【会議の内容】

No.	意見・質問	回答
①	最後の区長のお話で、世田谷区も14年前に太陽光パネルの設置への取り組みをしていたことを知りました。もっと世田谷区の話が知りたかったです	【事務局】貴重なご意見をいただきありがとうございました。 今回の会議では、グループワークの時間をしっかりと確保するために、世田谷区の取り組みを説明する時間が比較的短くなってしまったと感じています。今後、同様の会議を企画する際には気を付けていきたいと思っています。
②	全体的に太陽光発電推進の色が濃かった。最後のまとめが断熱改修の方だと気づいた時は戸惑った。	【事務局】貴重なご意見をいただきありがとうございました。 今後、同様の会議を企画する際には、脱炭素化の実現のために必要なミッションをバランスよく扱うことができるように気を付けていきたいと思っています。
③	外国人(または外国在住帰国者)はメンバーにいたのかしら?これから在日外国人は増加傾向にあるので気になりました。	【事務局】今回の会議では、住民基本台帳をもとに外国人住民も除外せずに無作為に参加案内を送りました。結果的に外国人住民からの応募はありませんでしたが、今後、同様の会議を企画する際には、参加者の多様性に配慮したさらなる工夫ができないか考えていきたいと思っています。

【会議の運営】

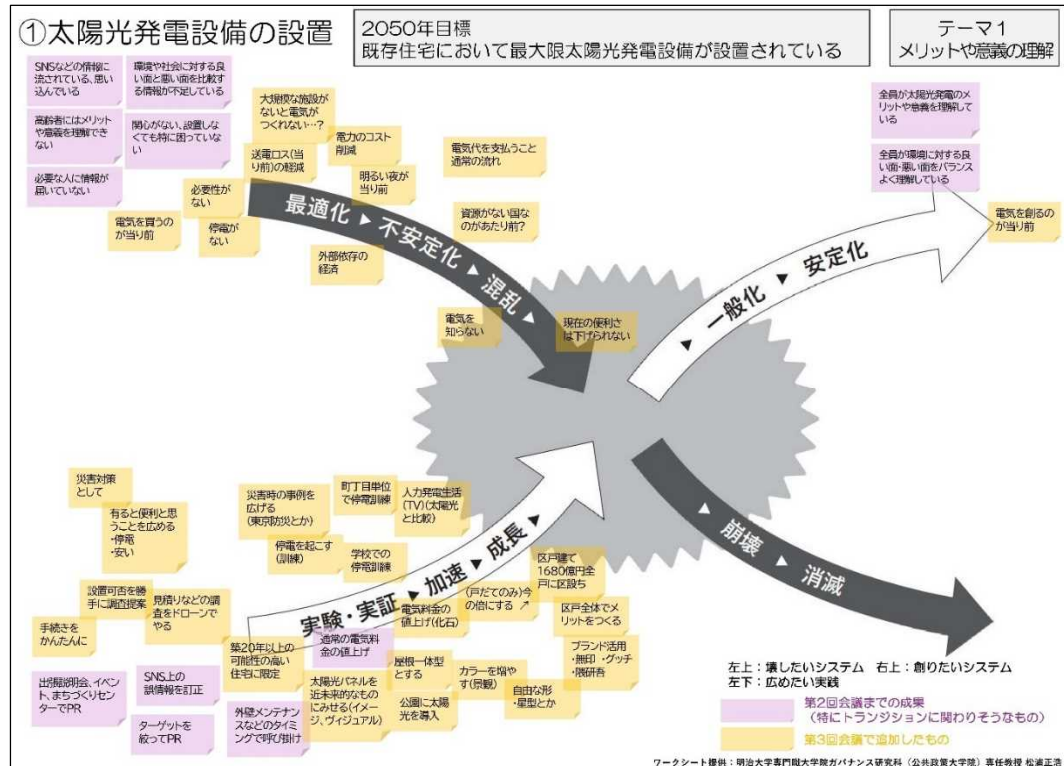
No.	意見・質問	回答
①	各グループの最後のまとめの発表時間をもう少し取って頂きたかった。1番大切な時間であったはずなのに、あまりにも時間が足りなかったと感じた。	【事務局】貴重なご意見をいただきありがとうございました。 今回の会議では、グループワークの時間をしっかりと確保するために、発表の時間が短くなってしまったと感じています。今後、同様の会議を企画する際には気を付けていきたいと思っています。
②	13時開始でしたが、13:30からにしていたら、家族と一緒に昼食を食べて移動ができますと思います。	【事務局】貴重なご意見をいただきありがとうございました。 今回の会議では、会議時間をしっかりと確保するために、参加者の皆さまにご負担をかけてしまったと感じています。今後、同様の会議を企画する際には気を付けていきたいと思っています。
③	取材で記事になっているのであれば、参加者に共有してほしいです。	【事務局】ご案内が遅れ申し訳ありませんでした。 今回は、駒沢こもればマガジンによる取材があり、一部が記事になっていましたのでご案内します↓ https://komazawa-comorevi.com/magazine/4913/

(5) グループワークの成果

第3回会議のグループワークの成果を以下に示します。なお、拡大版はWEB上に公開しました。

1) ミッション① 太陽光発電設備の設置 (テーマ：メリットや意義の理解)

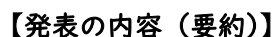
【ワークシート】



【発表の内容(要約)】

- ・ 電気や太陽光発電について、現在どのような状態であるか、私たちがどのように感じているかを話し合いました。
- ・ その結果、私たちは、電気がどのように作られ、どのように家庭に届いているのかも知らないということに改めて気づきました。また、日本には資源が少ないということも再確認できました。
- ・ 太陽光発電を広めていくために、災害時にも電気を供給できるという防災の視点を伝えたり、もっと太陽光発電をすてきなものにして、身近に捉えてもらえるようにしたいと考えています。

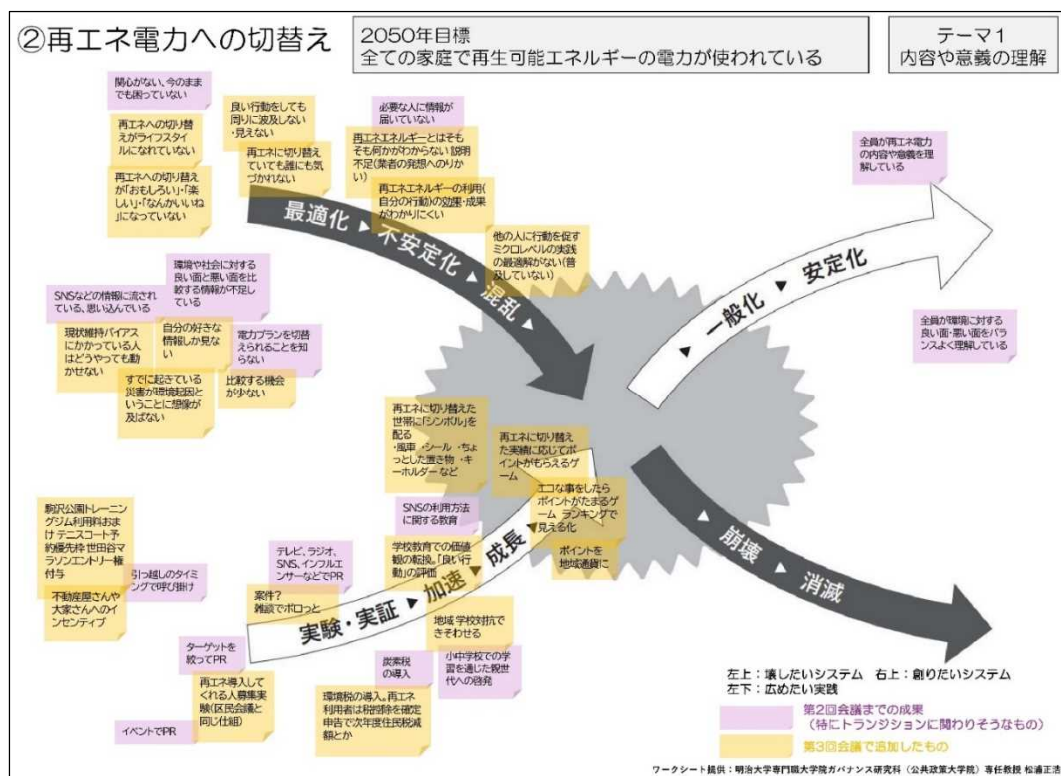
【ワークシート】



- 41

3) ミッション② 再生可能エネルギー電力への切替え(テーマ:内容や意義の理解)

【ワークシート】

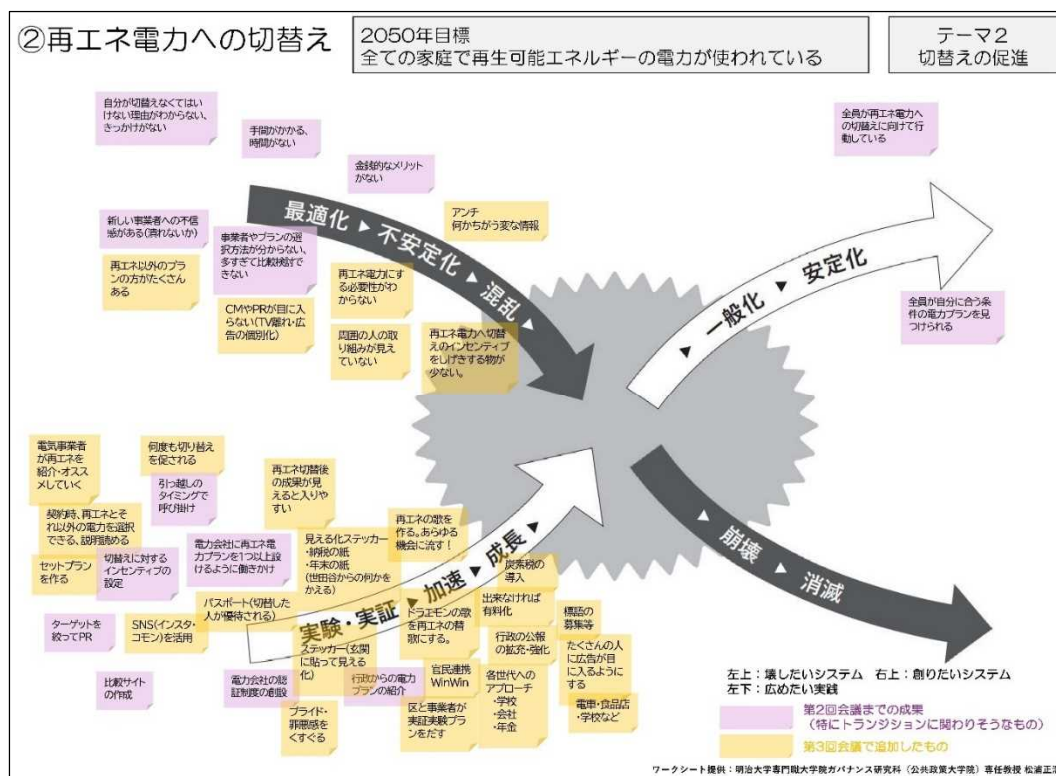


【発表の内容(要約)】

- ・ 実際に私は再エネ電力へ切り替えましたが、切り替えたことを誰かに伝える機会がなく、そのために周りに広がって行かないことに気づきました。また、誰かに伝えたいという気持ちになるためには、再エネ電力へ切り替えることで何か良いことがないと難しいと考えました。
- ・ そのためにできることを左下に挙げました。例えば、ヨーロッパでは、LGBTQを支援している人たちの家庭に、虹色の風車が飾ってあったりします。それと同じように、再エネ電力へ切り替えた人にシンボルになるようなものを配り、家に設置してもらいたいと考えています。
- ・ また、学校教育で普及させたり、不動産会社に協力してもらったりする必要があると考えています。
- ・ その他、駒沢公園などの施設利用の予約の際に、再エネ電力へ切り替えている家庭に対する優先枠を設けてもらいたいと考えています。

4) ミッション② 再生可能エネルギー電力への切替え（テーマ：切替えの促進）

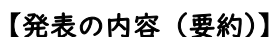
【ワークシート】



【発表の内容（要約）】

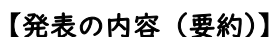
- ・ 私たちが考えたのは「世田谷モデル」です。区民がプライドを持って再エネ電力を「良いよね」、「切り換えないとダメだよ」と思うためのブランド化や見える化をするというものです。SNSなどでアピールしたうえで、再エネ電力へ切り替えた人にカードを配り、そのカードを使うとスーパーなどで少し割引してもらえるようにしたいと考えています。
- ・ また、世田谷区で再エネ電力へ切り替えると少し安くなるように、電気事業者と連携する必要があると考えています。
- ・ その他、官民連携しながらお互い Win-Win となるような民間企業を探す必要があります。例えば、自動車ディーラーで EV を買った人に、再エネ電力をお勧めしてもらいたいと考えています。
- ・ このように再エネ電力を普及させて行き、最後の残りの層については、切り換えないとデメリットになるような仕組みを用意しておく必要があります。例えば、毎月、電気料金を支払うたびに、「切り換えませんか」としつこく聞くようにして、2050 年には全員が再エネ電力へ切り替えられるようにしたいと考えています。

【ワークシート】



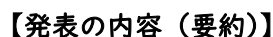
- ・ 第2回会議までの成果（ピンク色のふせん）に対して深掘りをしながら、具体的な取り組みを話し合いました。
- ・ 世田谷区や区民だけで、全員がメリットや意義を理解している状態にするのは難しいため、金融機関や宿泊施設、介護施設、ハウスメーカー、工務店などを巻き込むようにしてアピールしたいと考えています。
- ・ 例えば、第2回会議までに挙げた「ターゲットを絞ってPR」や「無料の省エネ診断を実施」に関しては、区民向けの省エネ建物の見学会を開催するだけでなく、宿泊施設から断熱改修をしてもらいたいと考えています。また、区内の宿泊施設や介護施設に断熱化を義務づけるべきという意見もありました。
- ・ その他、国や都のレベルでの税制優遇や保険料の優遇、電気料金に対する補助金の廃止なども必要ではないかという意見もありました。

【ワークシート】



- 45

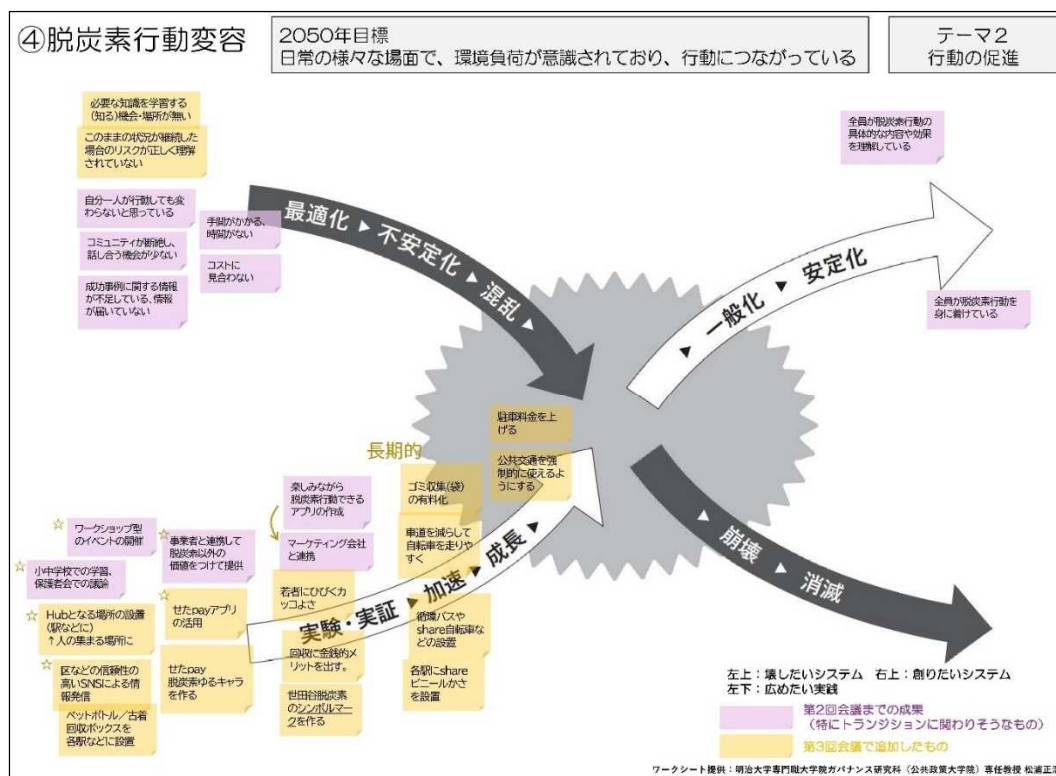
【ワークシート】



- 46

8) ミッション④ 脱炭素行動変容（テーマ：行動の促進）

【ワークシート】



【発表の内容（要約）】

- ・ 左上の「脱炭素社会へ向けた障壁」については、興味があっても正しい知識などを知る機会がないこと、一人で行動しても変わらないと考えてしまうことなどが挙げられました。興味がない人に関しては、脱炭素行動をとることに手間がかかること、コストに見合わないことなどが挙げられました。
- ・ 左下の取り組みについては、まずは小中学校での学習や保護者会での議論などが大事と考えています。興味がある人に対しては、「世田谷版気候市民会議」のような取り組みは知識を高める効果が高く、このような取り組みが継続的に行われることが大事と考えています。また、駅などで情報提供したり、SNSを使った発信をしたりして欲しいと考えています。
- ・ 興味がない人に対しては、マーケティング会社などと連携し、せたがや Pay と連動した脱炭素アプリを作ってもらいたいと考えています。また、脱炭素行動がカッコ良いと思われるようにすることや、世田谷脱炭素のシンボルマークを作ってもらいたいと考えています。
- ・ 長期的には、興味がある人もない人も納得した上で、車線を減らして自転車道をつくったり、循環バスやシェアサイクルを普及させたりするような交通施策を進めてもらいたいと考えています。

(6) 感想など

【講演に対する感想】

- ・ 脱炭素に向けて新たな視点で考える事が出来大変勉強になりました。
- ・ 知らないことばかりで大変興味深く講義を聴かせていただきました。 時代を振り返ればシステム変化に適応していく人間の柔軟性はすごいものがあるなと感じます。2050年の世界を見届けることができれば、この気候市民会議のことをしみじみと思い出したいと思います。 ありがとうございます。

※その他の感想などは、「Ⅳ アンケートの概要と結果」に示します。

III 政策提言の作成過程

I 政策提言の構成と作成方法の基本的な考え方

政策提言の構成と作成方法の基本的な考え方を以下に示します。

政策提言の構成と作成方法の基本的な考え方

章	項目	作成方法の基本的な考え方
第 1 章	世田谷版気候市民会議の概要	○ 会議の概要を事務局が整理する
第 2 章	身近な暮らしの脱炭素化に向けた 4 ミッション	○ 会議の企画段階で設定した 4 つのミッションの内容を事務局が整理する
第 3 章	身近な暮らしの脱炭素化に向けた取り組み	① 第 1 回会議と第 2 回会議の講演で家庭部門の脱炭素化の方向性を学ぶ ② 第 1 回会議のグループワークで、身近な暮らしの脱炭素化が進まない原因・障壁を整理する ③ 第 2 回会議のグループワークで脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みを検討する ④ これらのグループワークの成果をもとに、政策提言に記載する取り組みを事務局が整理する
第 4 章	身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップ	① 第 3 回会議の講演でトランジションとトランジション・マネジメントの概念を学ぶ ② 第 3 回会議のグループワークで、身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップを検討する ③ このグループワークの成果をもとに、政策提言に記載するロードマップを事務局が整理する

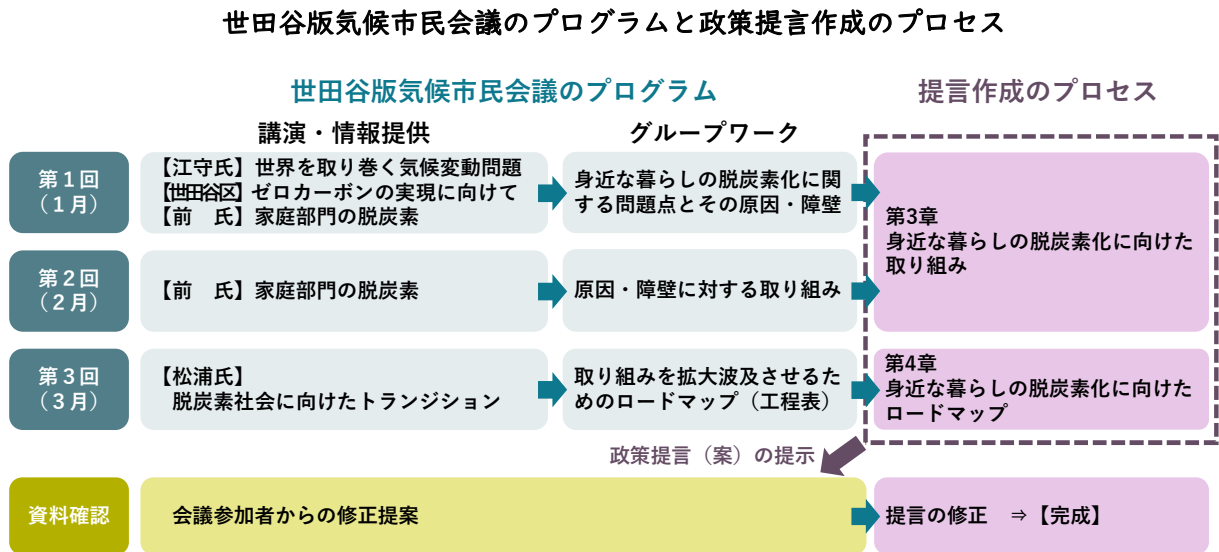
2 政策提言の作成の流れ

政策提言の作成に当たっては、「案作成」、「完成」という2つの段階を設けました。

まず、全3回のグループワークの成果を踏まえて、事務局が「政策提言（案）」を作成しました。

次に、「政策提言（案）」に対して修正する必要があるかを聞くために、参加者からの意見の募集を行いました。この意見の結果をもとに事務局が「政策提言（完成版）」を作成しました。

世田谷版気候市民会議のプログラムと政策提言作成のプロセスを以下に示します。



3 政策提言（案）に対する意見の募集の概要

「政策提言（案）」を作成し、参加者全員に最終確認の依頼と、修正する必要があるかを聞くための意見の募集を行いました。

「政策提言（案）」に対する意見の募集の概要を以下に示します。

政策提言（案）に対する意見の募集の概要

項目	概要
回答方法	「回答用 WEB フォーム」を用意
依頼方法	メールで意見募集の趣旨を説明し、「回答用 WEB フォーム」で回答するように依頼
依頼日と投票期限	依頼日：令和7年3月28日（金） 投票期限：令和7年4月6日（日）
意見を提出した参加者の数	0名

回答用 WEB フォームの内容

世田谷版気候市民会議からの提言（案）に対する意見募集

全3回の会議の成果をもとに政策提言（案）を作成しました。

グループワークで話し合われた成果がうまく反映できていない箇所などがありましたら、このフォームに具体的な修正（案）をご記入いただければと思います（修正したい点がない方は、ご記入いただく必要はありません）。

頂いた修正（案）を事務局で政策提言に反映していきますが、グループワークで話し合われた成果と大きく異なるご意見を頂いた場合には反映できない場合もあります。また、修正の方向性について意見が割れそうな内容が出てきた場合には、簡易な投票を行い修正内容を確定させる場合もあります。あらかじめ、ご了承ください。

また、政策提言（案）は、8つのグループで別々に話し合われた結果をもとに作成しているため、自分のグループで話し合われた結果がそのまま反映されていない場合もあります。その点もご理解いただけますと幸いです。

【入力期限：2025年4月6日（日曜）24時00分】

回答する

世田谷版気候市民会議からの提言（案）に対する意見募集

0 / 15

お名前をお書きください。

氏名 *

0文字

次へ

世田谷版気候市民会議からの提言（案）に対する意見募集

1 / 15

修正したい箇所のページ番号、行番号（又は表の該当箇所）をお書きください。

ページ番号 *

0文字

行番号（又は表の該当箇所） *

0文字

修正したい箇所の、修正前の文章と修正後の文章を具体的にお書きください。

修正前の文章 *

0文字

修正後の文章 *

0文字

※1 名当たり最大 5 件意見を提出できるように設定

4 政策提言の内容の変遷

「政策提言（案）」に対する意見の提出が 0 件であったため、「政策提言（案）」の内容を変更せずに「政策提言（完成版）」とした。

IV アンケートの概要と結果

I アンケートの概要

各回の会議終了後に、会議での理解や議論を深めるとともに、今後の会議の運営に活かすことを目的として、参加者アンケートを行いました。

アンケートの概要と設問の内容を以下に示します。

アンケートの概要

項目	概要
回答方法	「回答用 WEB フォーム」と「回答用紙」の 2 種類を用意
案内方法	各会議の閉会時に口頭で案内
回答期限	3 日間
回答者の数	第 1 回：28 名 第 2 回：23 名 第 3 回：17 名
回答	下記の設問 2～3 の回答：「II 各回の会議の概要とグループワークの成果」参照 下記の設問 4 以降の：「2 アンケートの結果」参照

アンケートの設問の内容（1/2）

設問	回	
	第 1 回 第 2 回	第 3 回
設問 1 本日所属していたグループを教えてください。	●	●
設問 2 専門家に対する質問等があれば、お書きください。	●	●
設問 3 会議の内容・運営に対する意見・提案・質問があれば、お書きください。	●	●
設問 4 全 3 回の会議を終えて、全体的な会議内容の満足度を教えてください。 ①満足 ②どちらかと言えば満足 ③どちらとも言えない ④どちらかと言えば不満 ⑤不満		●
設問 5 全 3 回の会議を終えて、気候変動問題への関心度の変化について教えてください。 ①関心が高まった ②どちらかと言えば関心が高まった ③変わらない ④どちらかと言えば関心が薄れた ⑤関心が薄れた		●
設問 6 設問 5 で③以外を選択した方は、具体的にどのような変化を感じたかをお書きください。		●
設問 7 4 つのミッションについて、ご自身の取り組み状況又は今後の意向を教えてください。 第 1 回会議前に実施していた 第 1 回会議後に実施した 今後実施したい 実施したいが今はできない 実施したくない		●

アンケートの設問の内容 (2/2)

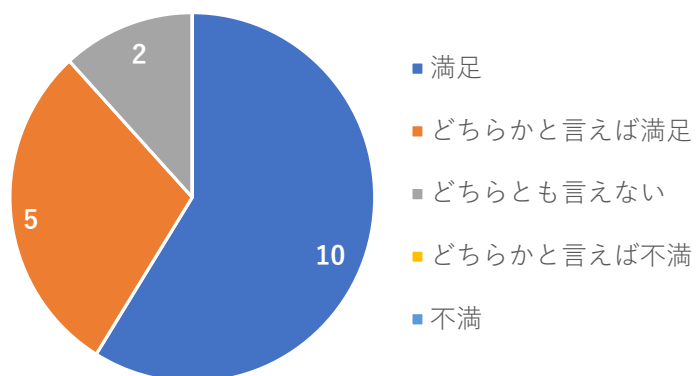
設問	回	
	第 1 回 第 2 回	第 3 回
設問 8 設問 7 で「実施したいが今はできない」又は「実施したくない」を選択した方は、その理由などをお書きください。		●
設問 9 今後の気候変動対策に関する活動の意向を教えてください ①活動を行いたい ②どちらかと言えば活動を行いたい ③どちらでもない ④どちらかと言えば活動を行いたくない ⑤活動を行いたくない		●
設問 10 全 3 回の会議を終えて、印象に残った点、感想などがあれば、お書きください。		●

2 アンケートの結果

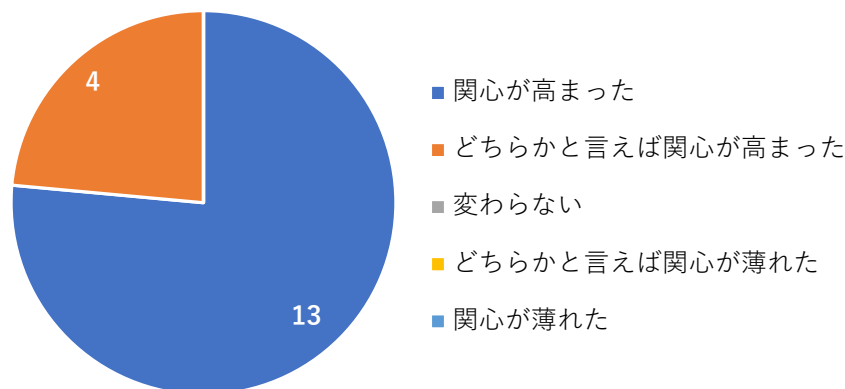
アンケートの各設問に対する回答を整理した結果を以下に示します（そのままでは文章の意味が読み取りづらいものや、誤字脱字のみ、事務局側で最低限の修正を行いました。その他は基本的に原文のまま掲載しています）。

なお、専門家に対する質問等については、「Ⅱ 各回の会議の概要とグループワークの成果」に記載しました。

設問 4 全 3 回の会議を終えての全体的な会議内容の満足度



設問 5 全 3 回の会議を終えての気候変動問題への関心度の変化



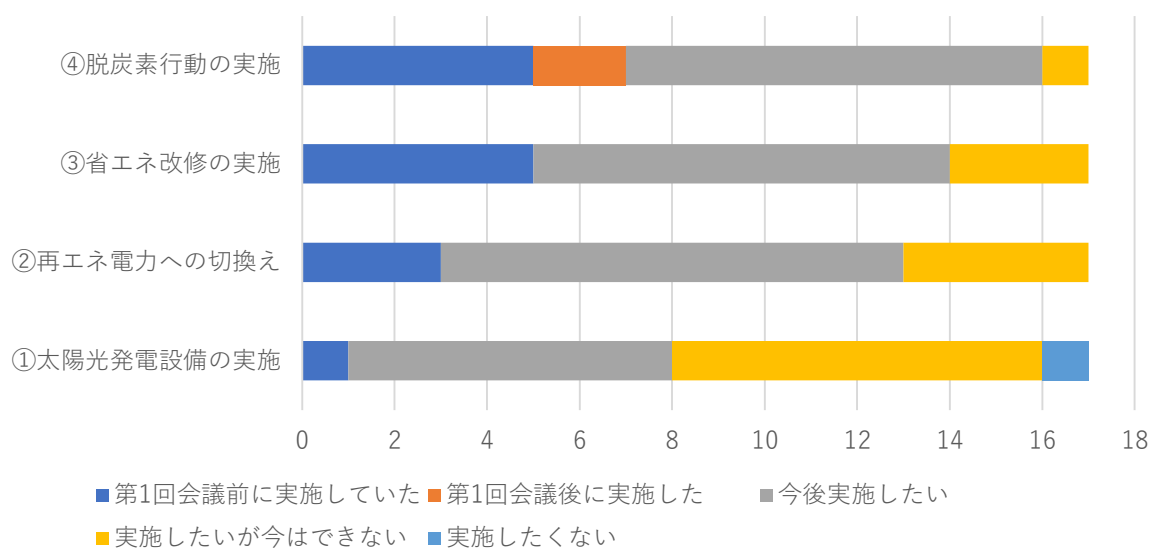
設問 6 具体的な変化

(前の質問で関心度が変化したと回答した方)

- ・ 自分に出来ることはあまり無いと思っていたが、身近な取り組みがあることや必要性がよく分かり、実際に取り組んでみようという気持ちになった。
- ・ 当事者意識が以前より高まった気がしています。淡々とできることをし、周りの人たちと他愛ない会話の中で話し、気候変動問題についての意識が広がっていくことを願うようになりました。
- ・ 何となく感じていた莫とした気候危機に対する危機感が具体的な絵として、自分事として捉えるようになりました。
- ・ 関心は有りましたが、現在においての必要性を知り関心が高まり、家族にも堂々と必要性について会話できるようになりました。
- ・ 専門家の分かりやすい説明や意見交換によって、太陽光発電を取り付ける意義や、省エネ改修の大きな効果を深く理解することができた。
- ・ 2050 年までに CO₂ 排出量ゼロを目指すことに対して、自分や家族が取り組めることを具体化してはじめていこうという気持ちが強くなったと思います。
- ・ 新聞などの気候変動に関する記事に今まで以上に注目するようになった
- ・ 国谷裕子さんの大型本シリーズや関連の TV ドキュメンタリーで勉強しましたが、専門家とメンバーの意見が聞けたことは極めて大きな変容を私に起こしました。これは最大の効果でした。
- ・ CO₂ 削減は、これまでの生活を大きく変えたり、我慢を強いられるものになるかと思っていたが、そうでないものも多く、明るい気持ちになれた。
- ・ 選択肢がある場合、可能な限りカーボンニュートラルな方法を選択するようになった
- ・ 断熱と省エネを関連させる意識が芽生えた。自分とは違う状況をより具体的に理解できた。
- ・ 太陽光発電のメリットを沢山知ることができた。

- ・ 太陽光発電の設置を検討
- ・ 再エネなど環境を意識した選択を行うようになった
- ・ 電力小売業者も多く、色々頑張っている事が判り、目からウロコ状態で、節電の必要性の認識強まった。
- ・ 窓の改修の広告などに気づくようになりました

設問 7 4つのミッションの取り組み状況又は今後の意向



設問 8 実施できない又はしたくない理由

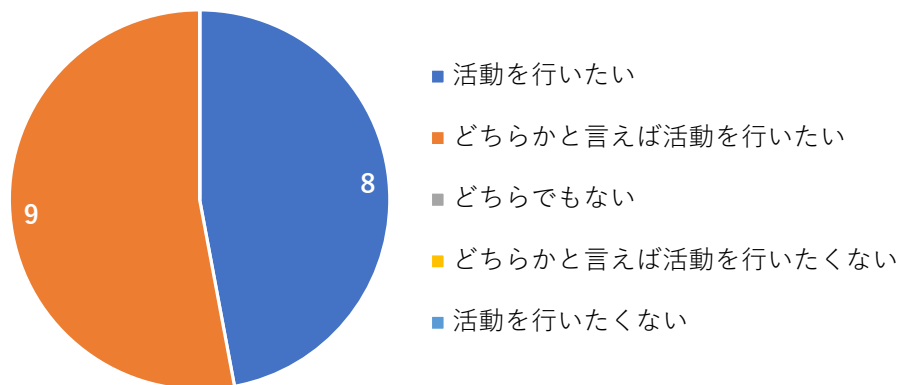
(前の質問で1つでも「実施したいが今はできない」又は「実施したくない」と回答した方)

- ・ 賃貸なので今は難しいが、今後持ち家に住む機会があればぜひ導入したい。
- ・ 集合住宅に住んでいるためベランダに太陽光発電設備が設置できれば進めたいと思いますが、現状は難しいと思います。
- ・ 集合賃貸住宅のため、大掛かりな改修は難しいです。
- ・ マンションのため太陽光パネルの設置は簡単にはできない
- ・ 賃貸集合住宅なので住民に権限が無い
- ・ 住宅の構造上の問題です 我が家の屋根に太陽光パネルの設置は無理だからです
- ・ 実施の必要性は充分理解していますが、家族全体での意見の統一に至っていないこと、現在の資金と老後の資金を考えての躊躇と、家の耐久性などの問題の解決が必要な状況からです。
- ・ 太陽光発電設備の設置ですが、我が家は一戸建て築年数も古く、設置費用等で難しい所も有るのでは無いかと思っています(勉強不足の所も有ると思いますが)
- ・ 太陽光発電設備の設置：実施したくない理由 地震、台風などの自然災害、屋根に穴をあ

けるリスクの払拭ができないことに加え、故障時やメンテナンスを考えると踏み切れません。

- ・ 再エネ電力への切替え：実施したいが今はできない理由 現在の費用と再エネにした場合の費用を比べようとネットでいろいろ調べてみましたがよくわかりませんでした。先日契約しているところに問い合わせをしたら電話が繋がるまで 1 時間待ちで一時的に断念した状態です。
- ・ 断熱材・二重窓・太陽光発電・エネファーム・蓄電池は既に設置している。更に電力会社を切り替えたいとは、今は感じられない。
- ・ 国内外で飛行機などを使わざるを得ないため

設問 9 今後の気候変動対策に関する活動の意向



設問 10 全 3 回の会議を終えて印象に残った点や感想など

【全 3 回の会議を終えて印象に残った点】

- ・ 難題もグループワークで取り組めたこと。
- ・ 世田谷区に於ける太陽光発電設置（各家庭の）必要性和有意性が判ったこと。

【全 3 回の会議を終えての感想など】

- ・ とても有意義だったので、ぜひ続けて頂きたい。
- ・ 様々な年代の方とお話することができ、社会的にも良い経験となった。
- ・ とても良い機会を与えて下さり、ありがとうございました。気候変動などの情報をしっかり受け止め、考え、行動する必要を学びました。
- ・ 地球にとって、人々にとって、より優しい社会になりますよう切に願っております。また機会がありましたら参加させていただけると嬉しいです。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。
- ・ 参加前と参加後では、少しずつですが、省エネに努めるなど、明らかに違った生き方になりました。

- ・ 地球温暖化に対する危機感を持って会議に参加される方がこんなにもいらっしゃることに勇気づけられ、自分にできる事を引き続きやっていたいこうと思いました。今回参加したことで、長年環境問題に取り組んでこられた先生方の講義を受けることができて、大変良い経験となりました。
- ・ 今後も技術革新は必要だし、期待したいが、今ある対策でも皆が真剣に取り組めば、ドラスティックに変わる可能性があることを知り、明るい気持ちになると同時に、個々人のモチベーションを上げていくという課題は難しさもあると思いました。その中で、こどものいる家庭は、保育園や学校が地域社会とのつながりを考え始めるきっかけになるし、気持ち的にも「こどもたちのため」をフックにすると、無理のない参加の糸口となります。会議でも意見を述べましたが、幼保育園、小中学校をうまく使うことが大事だと思います。
- ・ 最後の発表緊張しました
- ・ 戸建て住宅（建物）が22年ほどで価値ゼロになってしまうのが気になるところです。税法上しかたないとはいえ、このような価値観が日本で当たり前なのが残念でなりません。あたりに100年以上住める住宅というヴィジョンのもと、世田谷区として政策を考えていただけたら幸いです。
- ・ 今回は貴重な機会を頂き有難うございました。3回ともに有意義な時間を過ごせたのは、運営とファシリテーターの皆さんのおかげと感謝しています。
- ・ 運営事務局の卒のない進行。各回専門家の講義あり、グループワークありの内容で楽しかった。運営事務局とファシリテーターの手腕により、最後には提言をまとめるところまで持っていく。いろいろな意味で非常に参考になりました。
- ・ グループの司会進行のお陰で、一個人が意見を出しやすく、スムーズに進めて下さり、とても、素晴らしいと思っています。また、全体として、いろいろな人の意見をしっかりまとめ、事前の案内、資料作成、当日の進行がスムーズで安心して参加出来ました。ありがとうございました。
- ・ 会議の内容が後日きちんと整理されてメールで配信されたので、内容を振り返ることができてわかりやすかったです。
- ・ 運営者の皆さんの努力と工夫が判り、お疲れ様でした。有難うございました。

世田谷版気候市民会議 実施報告書

令和 7 年 4 月発行

発行 世田谷区 環境政策部

編集 アオイ環境株式会社